

地方協奏による 挑戦する若手人材の養成計画

平成 25 年度
(2013 年度)

成果報告書

平成 26 年 3 月

広島大学 若手研究人材養成センター

目次

1. はじめに	1
2. 若手研究人材養成事業の概要.....	2
2-1. ミッションステートメント	2
2-2. 推進体制.....	3
2-3. 研究人材養成の年次計画.....	4
2-4. 被養成者数および産業界への輩出人数の実績.....	5
2-4-1. 博士課程後期の大学院生（養成開始時の学年別）	5
2-4-2. 博士課程後期の大学院生（分野別）	5
2-4-3. 若手研究員（分野別）	6
2-4-4. 養成対象者の男女別人数.....	6
2-5. 被養成者数および産業界への輩出人数の当初目標値と実績値.....	7
2-6. 連携企業リスト	7
3. 実践プログラム	10
3-1. イノベーション人材養成システムの教育プログラム.....	10
3-2. 若手研究人材養成システム	11
3-3. 実践プログラムの構成.....	12
3-4. 実務コアコース（平成 21～24 年度の正規授業科目）	14
3-4-1. 実務キャリアプログラム.....	14
3-4-2. 英語コミュニケーションプログラム.....	15
3-4-3. MOT 教育プログラム.....	16

3-5. イノベーション研究コース（平成 21～24 年度の正規授業科目）	17
3-5-1. 融合領域研究プログラム	17
3-6. 実務コアコース（平成 25 年度の正規授業科目）	18
3-6-1. 実務キャリアプログラム	18
3-6-2. 英語コミュニケーションプログラム	18
3-6-3. MOT 教育プログラム	19
3-7. イノベーション研究コース（平成 25 年度の正規授業科目）	19
3-7-1. 融合領域研究プログラム	19
3-8. セミナー・シンポジウム・講習会	20
3-8-1. 英語セミナー	20
3-8-2. ストレス・マネジメントセミナー	21
3-8-3. 5 研究科共同セミナー	21
3-8-4. 企業人材セミナー	25
3-8-5. 若手研究人材養成シンポジウム	31
3-8-6. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム	33
3-8-7. 中国四国産学連携フォーラム	35
3-8-8. 企業見学会	37
3-8-9. ビジネスマナー講習会	37
3-8-10. 企業派遣プログラム成果報告会	40
4. 若手研究人材の養成支援	47
4-1. ホームページ	47
4-2. 研究室等紹介	48
4-2-1. 博士人材インタビュー	48
4-2-2. 教員へのインタビュー	52
4-2-3. 海外の大学，研究機関を経験した博士人材，教員へのインタビュー	56
4-3. 学生むけ小冊子 innovation	58
4-4. 博士課程後期学生対象 3 年手帳	59
4-5. アチーブメントカードシステム	60
4-6. 博士キャリア相談室	61

5. 若手研究人材の公募・選抜	62
5-1. 定期公募による選考.....	62
5-1-1. 公募の広報.....	62
5-1-2. 選考方法.....	62
5-1-3. 開講式およびスタートアップセミナー.....	63
5-1-4. 養成対象者の評価方法.....	63
5-2. 特別選抜.....	63
5-3. 選抜された養成対象者.....	64
5-3-1. イノベーション人材養成システム第Ⅰ期.....	64
5-3-2. イノベーション人材養成システム第Ⅱ期.....	64
5-3-3. イノベーション人材養成システム第Ⅲ期.....	64
5-3-4. イノベーション人材養成システム第Ⅳ期.....	64
5-3-5. イノベーション人材養成システム第Ⅴ期.....	64
5-3-6. イノベーション人材養成システム第Ⅵ期.....	64
5-3-7. イノベーション人材養成システム第Ⅶ期.....	64
5-3-8. イノベーション人材養成システム第Ⅷ期.....	65
5-3-9. イノベーション人材養成システム第Ⅸ期.....	65
6. 企業派遣（長期派遣）の実績	65
6-1. 第Ⅰ期生.....	67
6-2. 第Ⅱ期生.....	68
6-3. 第Ⅲ期生.....	69
6-4. 第Ⅳ期生.....	70
6-5. 第Ⅴ期生.....	71
6-6. 第Ⅵ期生.....	73
6-7. 第Ⅶ期生.....	74
6-8. 第Ⅷ期生.....	76
6-9. 第Ⅸ期生.....	78

7. 学内外との連携状況	79
7-1. 学会支部等との連携	79
7-2. 中国四国地方の国立大学との連携	79
7-3. 中国地域の経済関連団体等との連携	79
7-4. 地方自治体との連携	79
7-5. 担当者連絡会議	80
7-6. 担当者会議（ポストドクター・キャリア開発事業）	83
7-7. 他機関との連携	85
7-8. 学内合同シンポジウム	87
7-9. 外部に紹介された取組	88
8. 外部評価	89
8-1. 外部評価委員会	89
8-1-1. 第1回外部評価委員会	89
8-1-2. 第2回外部評価委員会	90
8-1-3. 第3回外部評価委員会	91
9. 取組履歴	93
9-1. 計画の開始	93
9-2. 文部科学省による中間評価	94
9-3. 年度ごとの取組事項	96
9-4. 人材養成の担当者	100
9-4-1. 研究人材養成委員会	100
9-4-2. 被養成者選抜ワーキング	101
9-4-3. 実践プログラムワーキング	101
9-4-4. 研究科連絡ワーキング	101
9-4-5. HP ワーキング	102

9－5. 人材養成の被養成者	102
9－6. 若手研究人材養成センターのメンバー	103
9-6-1. 平成 21 年度.....	103
9-6-2. 平成 22 年度.....	103
9-6-3. 平成 23 年度.....	103
9-6-4. 平成 24 年度.....	104
9-6-5. 平成 25 年度.....	104
10. 成果（5 年間）のまとめ	105

1. はじめに

本事業は、科学技術振興調整費「若手研究者養成システム改革 イノベーション創出若手研究人材養成」プログラムとして平成 21 年 7 月から開始し、現在は「科学技術人材育成費補助金 ポストドクター・インターンシップ推進事業（イノベーション創出若手研究人材養成）」として平成 26 年 3 月までの予定で文部科学省の支援を受けて推進している。本報告書は、この 5 年間の事業活動とその成果をまとめたものである。

人類社会の環境やシステムは、さらに変容して行くことが予想されるが、これに対応し、複雑な課題を解決し、世界の平和と地球社会の持続的な発展に貢献するためには、従来の学問分野や研究領域の枠組みを超え、新たな知を創造できるグローバルリーダーを育成し、社会に輩出することが求められている。しかしながら、大学だけではこのような人材育成をすることは難しくなっている。

本事業が目指す、産学協働による授業や国内外企業・機関へのインターンシップを通じた人材育成プログラムの構築は、新たな環境変化に立ち向かうグローバルリーダーの育成のためには不可欠である。さらに、本学では、博士課程教育リーディングプログラムとして、産学官の教員組織からなる、「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム(2011 年度文科省採択プログラム)」や「たおやかで平和な共生社会創生プログラム (2013 年度採択)」などの分野横断的大学院教育プログラムを推進し、世界で活躍するグローバルリーダーの育成を行っている。

「広島大学の長期ビジョン」(平成 21 年 6 月)では、教育改革の方向性として「豊かな人間性を備え、自主・自律的に考え行動できる人材を養成すること」を謳い、博士課程後期学生と若手博士研究員を、優れた研究人材として全学レベルで育成する仕組として、研究科の枠を超えた全学横断教育組織である「若手研究人材養成センター」を設置した。同センターでは、実践プログラム、国内外企業・機関への長期インターンシップ、セミナー・シンポジウム、博士人材キャリア相談室等による博士人材の意識改革、企業との連携・インターンシップによる博士人材の就職機会の提供など、を通して本事業を推進することで、多様な能力を有し新分野に挑戦する活力ある人材を育成し、産業界を含む幅広い分野に輩出することを目指している。

本事業の開始当初、多くの企業が短期インターンシッププログラムは有していたものの、長期の受入経験がなく、困難を極めたが、現在 60 社近い企業が受入企業として登録され、またこれら企業への就職など、本事業を推進したことで、大学だけでなく企業の姿勢も変えることが出来たのではないかと考えている。これもひとえに、連携企業の方々、学内外の教職員の皆様のご支援、ご指導の賜物であり、深く感謝している。また、「若手研究人材養成センター」スタッフの地道な努力があったことも申し添えたい。

本事業の推進が、広島大学の教育・研究・産学連携のシステム改革に大きく貢献したものと確信するとともに、本事業が国の支援終了後も本学の支援でさらに継続・発展することになったことを報告し、私の挨拶とします。

平成 26 年 3 月 5 日

広島大学 若手研究人材養成センター長
理事・副学長（社会産学連携・広報・情報担当）

岡本 哲治

2. 若手研究人材養成事業の概要

平成 21 年度科学技術振興調整費「若手研究者養成システム改革」の「イノベーション創出若手研究人材養成」に、広島大学として『地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画』を申請し、採択された。

本報告書は、5 年間の事業期間の取組内容と成果をまとめたものである。

2-1. ミッションステートメント

事業のミッションステートメントをここに記す。

提案課題名 「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」
総括責任者名 「広島大学長 浅原 利正」
提案機関名 「国立大学法人 広島大学」

(1) イノベーション人材養成システムの概要

若手研究人材養成センターを設置し、男女を問わず、独自の専門に裏打ちされた幅広い知識と興味を持ち、新分野に挑戦する活力のある人材を養成する。博士課程後期の学生及び若手博士研究員を対象とする。被養成者は、センターで開発する「実践プログラム」(実務キャリア、英語コミュニケーション、MOT 教育、融合領域研究、異分野研究支援、企業派遣の各プログラム)を選択して受講する。修得単位や取組み実績は、アチーブメントカードシステムにより一元管理し、それに基づく指導・助言を行う。学会中国四国支部等の活動で培っている企業や教員組織との連携を通して、中国四国地方における産官学と協奏的に若手研究人材養成を推進する。被養成者は、毎年 9 月(10 月に養成開始)と 3 月(4 月に養成開始)に選抜し、養成期間は、12 ヶ月とする。養成人数は、每期、博士課程後期の学生 5 人、博士研究員 2 人とする。

(2) 3 年目における具体的な目標

養成人数の目標: 博士課程後期の学生(20 人)、博士研究員(8 人)

産業界への輩出人数の目標: 7 人

システムの内容: 若手研究人材養成センターにおいて、実務コアコースとイノベーション研究コースを構成する実践プログラムがすべて稼働している。

(3) 実施期間終了時における具体的な目標

養成人数の目標: 博士課程後期の学生(40 人)、博士研究員(16 人)

産業界への輩出人数の目標: 14 人

システムの内容: 若手研究人材養成センターにおいて、実務コアコースとイノベーション研究コースを構成する実践プログラムが、PDCA サイクルにより、確立している。アチーブメントカードシステムの活用により、博士課程後期の学生や博士研究員への指導と助言が効果的にできる環境となっている。

(4) 実施期間終了後の取組み

自然科学系に限らず、すべての分野の研究人材を対象として発展させる。また、他大学に所属する学生をこのセンターに依託学生として受け入れる取り組みを積極的に広げていき、中国四国地方の大学から優秀でやる気のある大学院生が集まるように発展させていく。

(5) 期待される波及効果

教職員を対象とした人材育成推進室とセットで、全学組織として若手研究人材養成センターを構築することにより、後継者養成に関する教職員の意識改革が加速する。また、学会の支部組織を通じた企業との連携は、法人会員が多い学会の、研究人材養成への主体的な取り組みを活性化する。

採択時に付されたコメントは次のとおりである。

=====採択時コメント:ここから=====

イノベーション創出若手研究人材養成プログラムにおける中国・四国地域の1つの拠点として、地域との連携に基づくユニークな養成システムの構築に期待が寄せられ、システム実現に向けた熱意も評価された。

ただし、課題の実施にあたっては、ミッションステートメントに計画の着実な実施を明記するとともに、実施体制、役割分担を明確にし、メンターとして参加する指導教官や博士人材の産業界への輩出に協力的な教職員の評価システム等についても検討して頂きたい。また、プログラムの実施によって得られた知見を、誰が、いつ どのような仕組みとして大学に定着させるか等を明確にして進めて頂きたい。さらに、インターンシップにおいては、選抜基準を明確にして意欲と能力のあるイノベーション創出若手人材を選定し、産業界への輩出人数を上げる努力をして頂きたい。なお、企業との契約においては、知的財産、守秘義務、報酬等を事前に明確にして提案課題を実施して頂きたい。

【採択条件】

初年度よりインターンシップを開始するよう計画(提案書様式2-5)を修正すること。

=====採択時コメント:ここまで=====

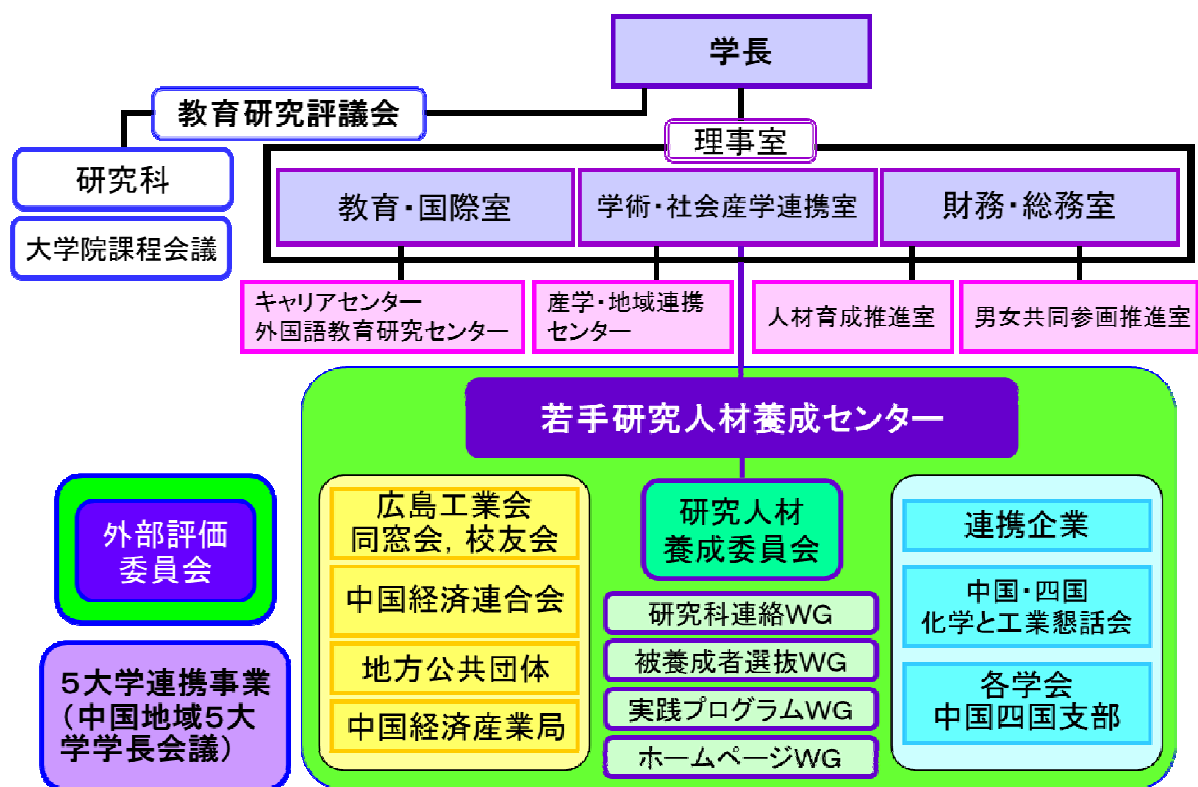
なお、提案書(様式2-5)には、初年度からインターンシップを開始するような計画を記載してあったのに、そうではないように受け取られてしまっていた。これは、審査員の誤解である。誤解を受けないように表を修正して、提出しなおした。

2-2. 推進体制

研究人材養成は、学術・教育・産学連携・地域連携等の大学の機能すべてと関連する。そのため、学長の強いリーダーシップのもと、研究人材養成の取組みを全学体制として推進する。大学としての取組みが、学会や企業との連携と協奏的に進むことにより、学生や若手研究員にとって信頼感がもてる取り組みとなる。そのような人材養成を進めることが必要である。

そこで、「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」事業を推進し、実践プログラム等の管理・運営をおこなうための「若手研究人材養成センター」を、全学組織として平成21年7月に設置した。若手研究人材養成センターは、大学院博士課程後期の学生および若手研究員を対象としたセンターである。そのセンターの機能の一つが「イノベーション人材養成システム」であり、選抜した被養成者に対して、「イノベーション創出」を目的とした人材養成を行う。その業務内容は次の項目である。

- ・実践プログラムの開発
- ・実践プログラムの管理・運営
- ・アチーブメントカードシステムの運営
- ・人材養成に係る支援業務
- ・連携企業に係る支援業務
- ・研究人材養成委員会に係る支援業務



2-3. 研究人材養成の年次計画

広島大学は、すべての分野を網羅する総合大学であり、三つのキャンパス(広島市内に 2, 東広島市内に 1)をもつ。大学院は 11 研究科から成り、本学は、すべての研究科で博士課程後期をもつ中国四国地域の拠点大学である。本事業は自然科学系の若手研究者を対象としているので、5 年間の補助期間においては、本学のすべての理系 7 研究科(東広島キャンパスの総合科学, 生物圏科学, 先端物質科学, 理学, 工学, 国際協力, 及び、霞キャンパスの医歯薬保健学のうち薬学系)に所属する博士課程後期の大学院生が養成対象である。若手研究員(学位取得後 5 年以内の若手研究者)についても、あらゆる自然科学系を専門とする研究者を対象としている。本事業を、本学の教育システムの一環とするため、学年暦と同期させ、全学一斉に次図のようなサイクルでイノベーション人材養成システムの被養成者を選抜することとした。養成期間は、1 年間である。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
第Ⅰ期	10月～				
第Ⅱ期		4月～			
第Ⅲ期			10月～		
第Ⅳ期			4月～		
第Ⅴ期			10月～		
第Ⅵ期				4月～	
第Ⅶ期				10月～	
第Ⅷ期					4月～
第Ⅸ期					10月～

2-4. 被養成者数および産業界への輩出人数の実績

事業期間（5年間）において養成した人数をここにまとめる。

就職者数は平成26年2月15日現在であり、内定者（平成26年4月1日採用見込）を含む。

2-4-1. 博士課程後期の大学院生（養成開始時の学年別）

		養成開始の人数				インターンシップ先に 就職した人数				インターン先以外の 産業界に就職した人数				計(産業界に 就職した人数)			
人数(計) (1)は留学生の内数		41(9)				5(1)				6(1)				11(2)			
養成開始時期		D1	D2	D3	D4 以上	D1	D2	D3	D4 以上	D1	D2	D3	D4 以上	D1	D2	D3	D4 以上
第Ⅰ期	H21年後期		2	3								1				1	
第Ⅱ期	H22年前期			1	1			1								1	
第Ⅲ期	H22年後期	2(1)	1(1)				1(1)								1(1)		
第Ⅳ期	H23年前期		3(1)	2				1			1(1)	1			1(1)	2	
第Ⅴ期	H23年後期	2	3(1)	1(1)			1								1		
第Ⅵ期	H24年前期		2(1)	2								2				2	
第Ⅶ期	H24年後期	1	4	1(1)			1				1				2		
第Ⅷ期	H25年前期	5(1)	1(1)														
第Ⅸ期	H25年後期	2	2														
	計	12 (2)	18 (5)	10 (2)	1	0	3 (1)	2	0	0	2 (1)	4	0	0	5 (2)	6	0

2-4-2. 博士課程後期の大学院生（分野別）

		養成開始の人数				インターンシップ先に 就職した人数				インターン先以外の 産業界に就職した人数				計(産業界に 就職した人数)			
人数(計) (1)は留学生の内数		41(9)				5(1)				6(1)				11(2)			
養成開始時期		理学系	工学系	農学系	歯薬学系	理学系	工学系	農学系	歯薬学系	理学系	工学系	農学系	歯薬学系	理学系	工学系	農学系	歯薬学系
第Ⅰ期	H21年後期	4	1							1				1			
第Ⅱ期	H22年前期	1		1				1								1	
第Ⅲ期	H22年後期	1	1(1)	1(1)				1(1)								1(1)	
第Ⅳ期	H23年前期	3	2(1)			1					2(1)			1	2(1)		
第Ⅴ期	H23年後期		4(1)	2(1)			1								1		
第Ⅵ期	H24年前期	2	2(1)							2				2			
第Ⅶ期	H24年後期	4		2(1)				1		1				1		1	
第Ⅷ期	H25年前期	3(1)	3(1)														
第Ⅸ期	H25年後期	2	1	1													
	計	20 (1)	14 (5)	7 (3)	0	1	1	3 (1)	0	4	2 (1)	0	0	5	3 (1)	3 (1)	0

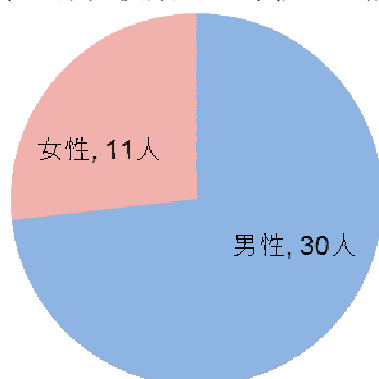
2-4-3. 若手研究員（分野別）

		養成開始の人数				インターンシップ先に就職した人数				インターン先以外の産業界に就職した人数				計(産業界に就職した人数)			
	人数(計) (○)は留学生の内数	16(5)				9(3)				2				11(3)			
養成開始時期		理学系	工学系	農学系	歯医学系	理学系	工学系	農学系	歯医学系	理学系	工学系	農学系	歯医学系	理学系	工学系	農学系	歯医学系
第Ⅰ期	H21年後期		1		1(1)		1		1(1)						1		1(1)
第Ⅱ期	H22年前期	1	1			1								1			
第Ⅲ期	H22年後期			1(1)													
第Ⅳ期	H23年前期	1		1		1						1		1		1	
第Ⅴ期	H23年後期		1(1)														
第Ⅵ期	H24年前期		1	1			1	1							1	1	
第Ⅶ期	H24年後期			1	1(1)			1	1(1)							1	1(1)
第Ⅷ期	H25年前期	3(1)	1			1(1)				1				2(1)			
第Ⅸ期	H25年後期																
	計	5(1)	5(1)	4(1)	2(2)	3(1)	2	2	2(2)	1	0	1	0	4(1)	2	3	2(2)

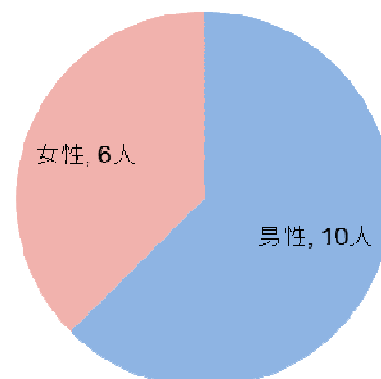
2-4-4. 養成対象者の男女別人数

養成開始人数

博士課程後期の大学院生（計 41 人）

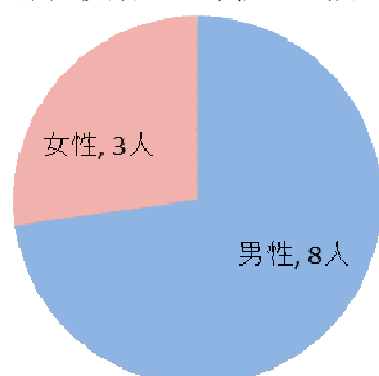


若手研究員（計 16 人）

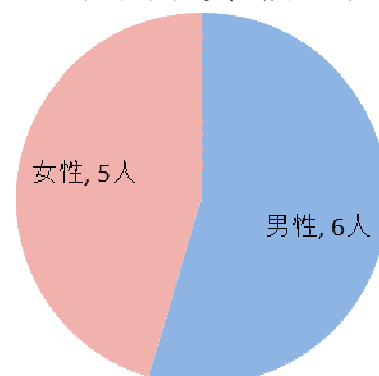


産業界に就職した人数

博士課程後期の大学院生（計 11 人）



若手研究員（計 11 人）



2-5. 被養成者数および産業界への輩出人数の当初目標値と実績値

養成対象者	当初の目標人数		実績人数※	
	養成人数	産業界への輩出人数	養成開始人数	産業界への輩出人数※※
DC	40	10	41	11
PD	16	4	16	11

※平成 26 年 2 月末日現在

※※内定者（平成 26 年 4 月 1 日採用見込）を含む

2-6. 連携企業リスト

連携企業は、若手研究人材養成センターの理念に同意する企業であり、その数は、58社（平成26年1月29日現在）である。その内35社とは「長期取組に関する覚書」を交わしている。下表に★を付している。

★株式会社あじかん	ナカシマプロペラ株式会社
★株式会社アビー	ナカシマメディカル株式会社
★旭化成ケミカルズ株式会社 化学・プロセス研究所	★ナガセケムテックス株式会社
宇部興産株式会社	★株式会社ニッシン
★株式会社HGSTジャパン	★日本光電工業株式会社
株式会社栄工社	★株式会社日本製鋼所 広島製作所
★亀田製菓株式会社	★医療法人ハート
★公益財団法人くれ産業振興センター	バブコック日立株式会社 呉事業所
株式会社建設環境研究所	株式会社ヒロテック
★株式会社コア 中四国カンパニー	ヒロボー株式会社
★サイボウズ株式会社	★株式会社日立中国ソリューションズ
★株式会社サタケ	広島ガス株式会社
株式会社ジェイ・エム・エス	★学校法人鶴学園 広島工業大学
★株式会社生体分子計測研究所	★株式会社ファーマフーズ
★ダイキョーニシカワ株式会社	株式会社ブレインチャイルド
★ダイヤ工業株式会社	★復建調査設計株式会社
中外テクノス株式会社	ベンダ工業株式会社
★中国セントラルコンサルタント株式会社	マツダ株式会社
中国電力株式会社 エネルギー総合研究所	株式会社ミウラ

★株式会社テック	株式会社三井化学分析センター
★テラルテクノサービス株式会社	三菱重工業株式会社 広島製作所
トーヨーエイテック株式会社	★三菱レイヨン株式会社
株式会社 トクヤマ	★メドエルジャパン株式会社
★株式会社東京カンテイ	株式会社山田養蜂場本社
★株式会社東洋高圧	★ラボテック株式会社
★東洋紡株式会社	★株式会社ワコムアイティ
★株式会社特殊免疫研究所	その他(*) 4 社(★: 2 社)
★戸田工業株式会社	

(*) 企業名の公表不可の企業

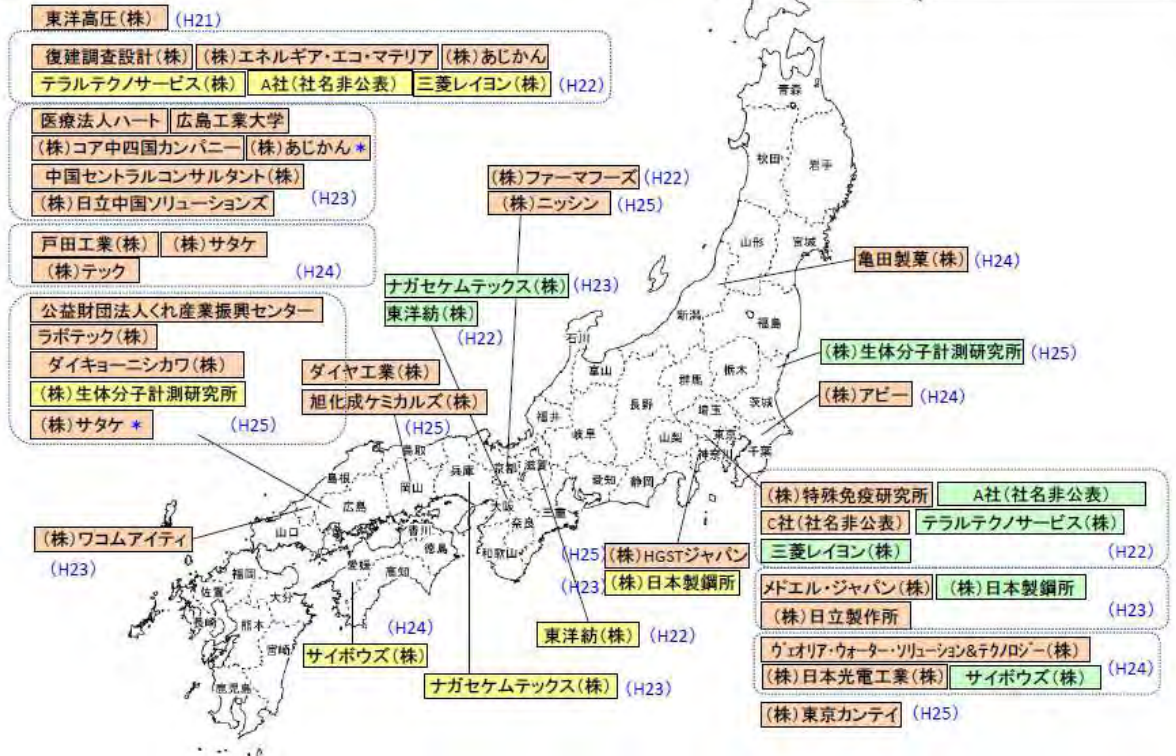
【業種別一覧】

業種	数	企業名
製造業・電子機器	6	(株)テック, 日本光電工業(株), メドエルジャパン(株), (株)栄工業, (株)HGSTジャパン その他:1社
製造業・機械	14	(株)サタケ, (株)ジェイ・エム・エス, トーヨーエイテック(株), (株)東洋高圧, ナカシマプロペラ(株), ナカシマメディカル(株), (株)日本製鋼所広島製作所, バブコック日立(株)呉事業所, ヒロボー(株), ベンダ工業(株), 三菱重工業(株)広島製作所, (株)アビー, (株)ヒロテック, マツダ(株)
製造業・化学工業	7	旭化成ケミカルズ(株)化学プロセス研究所, 宇部興産(株), ダイキョーニシカワ(株), (株)トクヤマ, 戸田工業(株), ナガセケムテックス(株), (株)三井化学分析センター
製造業・医薬品	1	(株)特殊免疫研究所
製造業・食品	4	(株)あじかん, (株)ファーマフーズ, (株)山田養蜂場, 亀田製菓(株)
その他製造業	7	東洋紡績(株), 三菱レイヨン(株), ラボテック(株), (株)生体分子計測研究所, (株)ニッシン, ダイヤ工業(株) その他:1社
電気・ガス業	2	中国電力(株)エネルギー総合研究所, 広島ガス(株)
情報・通信業	5	(株)コア中四国カンパニー, (株)日立中国ソリューションズ, (株)ワコムアイティ, サイボウズ(株), (株)ミウラ
サービス業	9	中外テクノス(株), 中国セントラルコンサルタント(株), テラルテクノサービス(株), 復建調査設計(株), (株)ブレインチャイルド, (株)建設環境研究所, (株)東京カンテイ その他:2社
医療	1	医療法人ハート
大学	1	学校法人鶴学園 広島工業大学
その他	1	公益財団法人 くれ産業振興センター
計	58	

インターンシップ先分布図

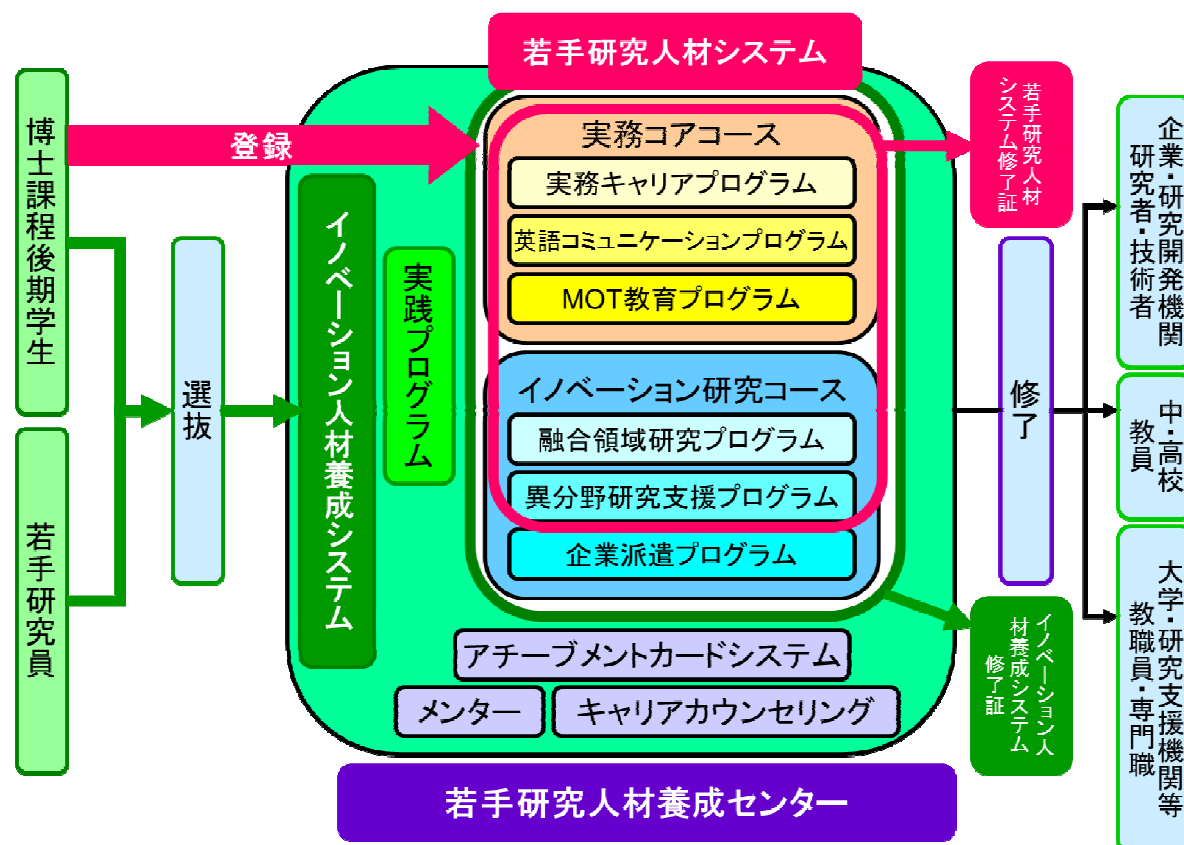
(平成26年2月現在) ()は受入年度 *受入2回目の企業

広島県



3. 実践プログラム

3-1. イノベーション人材養成システムの教育プログラム



実践プログラムは、それぞれ次の力を身につけることを目的として構築している。

身につく力	幅広い知見	コミュニケーション能力	実践力	課題設定・解決力	創造力	発想力
実務コアコース						
実務キャリアプログラム	○	○		○		○
英語コミュニケーションプログラム		○				
MOT教育プログラム	○	○		○	○	
イノベーション研究コース						
融合領域研究プログラム	○	○		○	○	○
異分野研究支援プログラム	○	○	○	○	○	○
企業派遣プログラム	○	○	○	○		○

3-2. 若手研究人材養成システム

若手研究人材システムは、イノベーション人材養成システムの企業派遣プログラム以外のプログラムだけを受講するシステムである。これは登録制であり、広島大学の大学院生(前期および後期)は誰でも登録することができる。登録は、若手研究人材養成センターの独自ホームページの専用サイトからオンラインで随時受け付けている。(URL: <http://wakate.sci.hiroshima-u.ac.jp/yrec/>)

HIROSHIMA UNIVERSITY
Young Researchers Education Center
若手研究人材養成センター

ログインしてください。
若手研究人材システム
オンライン登録はこちら
お問い合わせ・ご相談はこちら
ログイン

発想力 コミュニケーション能力 実践力

産業界のニーズにあった実践的で幅広い知識を身につけ、
新分野に挑戦する活力ある若手研究者を目指せ！

学生のみなさまへ 関係者のみなさまへ 求人希望のみなさまへ

博士課程後期・ポスドク 博士を目指す方へ 企業関係者 大学関係者 求人情報 インターンシップ情報

今、広島大学が
やろうとしていること

イノベーション人材養成
プロジェクトとは？

アチーブメントカード
システムについて

広島大学若手研究人材
養成センターについて

博士人材キャリア
相談室のご案内

毎週更新！広島大学の
若手研究者の論文情報

イノベーション人材養成システム
特別選抜

若手海外派遣プログラム参加者募集

実践プログラム

企業人材セミナー

リンク

アクセス

文部科学省・JST
博士人材キャリア開発サイト

若手研究者養成センター新着情報

第5回若手研究人材養成シンポジウム・第9回企業派遣プログラム成果報告会—5年間の報告と今後の展望—を開催します (2014.02.21 掲載)

平成26年度広島大学特別研究員を公募します (2014.02.21 掲載)

広島大学の若手研究者(博士課程後期在籍者・研究員)の最新論文新着情報を更新しました (2014.01.16 掲載)

新着情報一覧を見る

To be Professional 『Dの飛翔』

第13回 医歯薬保健学研究院 生体環境適応科学研究室 (弓削研究室) D3 猪村 剛史さん (2013.12.06 掲載)

第12回 先端物質科学研究科 分子生命機能科学専攻・酒類総合研究所 醸造基盤研究部門 研究生 D3 河内謙之さん (2013.11.08 掲載)

To be Professional 『Dの飛翔』

Professional 先生の流儀

第10回 工学研究院 教授 杉本 俊多先生 インタビュー (2013.11.08 掲載)

第9回 理学研究科 教授 高橋 嘉夫先生 インタビュー (2013.10.01 掲載)

3-3. 実践プログラムの構成

それぞれのプログラムの、学内の連携先及び内容の概略を次に示す。

	プログラム名	学内の連携先	内容
実務コース	実務キャリアプログラム	産学・地域連携センター キャリアセンター	社会人基力の向上と、ビジネススキルの基を学
	英語コミュニケーションプログラム	外国語教育研究センター	自身の研究内容を分かりく英語で書く・るスキルを学
	教育プログラム	産学・地域連携センター	ケースメソッドを通して、企業実務や営など専門的な技術 営を学
イノベーション研究コース	融合領域研究プログラム	理学研究科等 子生 科学プロジェクト 研究センター	5研究科 同セミナー() 物質科学, 生 科学, 情報科学を基 と する融合領域研究の基 を学
	異分野研究支援プログラム	子生 科学プロジェクト 研究センター	企業人材セミナー, ナノ・バイオ・インフ 化学シン ジウム(英語での 発表), 人材養成関連シン ジウム
	企業派遣プログラム		間企業での3ヶ月以上の長期取組(イ ンターンシップ)とそれに係る事前研修。 企業派遣プログラム成果報告会

※「5 研究科 同セミナー」は、広島大学の自然科学・技術系研究科(総合科学, 理学, 工学, 先端物質科学, 生物圏科学の「5 研究科」)において開 される学術講 やセミナー等を, 15 以上の出 により, 単位を合 で 定するものである。

事業終了後も継 することを念 に, 大学院の正 業科目(単位付 あり)とすることを 定している。
これまでに大学院の正 科目となっている科目名及び単位数を次にまとめる。

プログラム名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
実務キャリアプログラ ム	1科目2単位	8科目9単位	8科目9単位	7科目7単位	5科目5単位
英語コミュニケーションプログラ ム	1科目2単位	5科目10単位	6科目12単位	6科目12単位	8科目16単位
教育プログラ ム	1科目2単位	7科目14単位	7科目14単位	7科目14単位	7科目14単位
融合領域研究プログラ ム	2科目3単位	2科目3単位	3科目5単位	3科目5単位	3科目5単位

正の業科目としていないセミナー等は、次のとおりである。

英語コミュニケーションプログラム

英語セミナー

学内の外国語教育研究センターと協力し、英語セミナーを、不定期に、全学の博士課程後期及び若手研究者を対象として実施している。また、被養成者のみを対象として、外部の語学教育会社を活用した集中的な英語セミナーを実施している。

異分野研究支援プログラム

企業人材セミナー

主に企業の研究開発部で活動している方や人事担当者より、新の研究開発動向や人材活用のを学ぶことを目的として「企業人材セミナー」(セミナー:14:30 16:00 講義を交えた会:16:10 17:00)を開いている。

若手研究人材養成シンジウム

イノベーション創出をいかに推進するかの手がかりをみ、また、地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画を内外にアピールし、理解と協力・支援を得ることにより、プログラムの実と発展を図ることを目的として、若手研究人材養成シンジウムを開いた。

ナノ・バイオ・インフ 化学シンジウム

融合領域研究の英語による発表である。英語で発表した学生のうち、一参加者のにより、The Best Student Presentation Award(3名)と Student Award(3名)を、毎年、している。

中国四国産学連携化学フォーラム

日本化学会中国四国支部および中国・四国産学連携会の主である「中国四国産学連携化学フォーラム」をし、養成対象者に幅広い知識やをすることを目的としたフォーラムを企画している。これは、学会および企業との連携をめるための取組みの一環でもある。

企業見学会

企業人材セミナーで題を提いただいた連携企業を中心に、実際に企業現場を問する学外実を行う。

企業派遣プログラム

ビジネスマナー講座

社会人としての基本的なマナーを身につけることを目的とした講座を開いている。

企業派遣プログラム成果報告会

被養成者、企業メンター、学内メンターによる企業派遣プログラム(長期取組(インターンシップ))の成果の報告は、これから企業派遣プログラムに取り組もうとする企業、教員、学生に対してい指となる。そこで、被養成者、企業メンター、学内メンターの三者による、企業派遣プログラム成果報告会を、每期終了時に開いている

3-4. 実務コアコース（平成21～24年度の正規授業科目）

平成21年度から平成24年度の授業科目名および修学生数は次のとおりである。これらの科目は、本学大学院の正科目として立ち上げているものであるから、本システムの被養成者だけでなく、本学の大学院生が受講している。このようにして、これらの授業科目を通して、本取組を、全学の大学院生に知している。また、本学の教員が授業を受けている。なお、ここにあげる人数は、「もみじ」に修登録している人数である。実際には、単位不要として講じている者もいる。

3-4-1. 実務キャリアプログラム

平成21年度		
プログラム名	講義名	全受講者数
実務キャリアプログラム	理工系キャリアデザイン1	18
平成22年度		
実務キャリアプログラム	理工系キャリアデザイン	24
	理工系キャリアデザイン1（コミュニケーション・プレゼンテーション）	4
	理工系キャリアデザイン2（ファシリテーション）	4
	課題発見・問題解決，発想法	13
	事情	10
	知的財産	1
	理工学のための財務及び会計	1
	実務マネジメント	12
平成23年度		
実務キャリアプログラム	理工系キャリアデザイン	20
	理工系キャリアデザイン1（コミュニケーション・プレゼンテーション）	2
	理工系キャリアデザイン2（ファシリテーション）	2
	課題発見・問題解決，発想法	23
	事情	16
	リーダーシップ手法	19
	アジア概	12
	実務マネジメント	10
平成24年度		
実務キャリアプログラム	理工系キャリアデザイン1（コミュニケーション・プレゼンテーション）	32
	理工系キャリアデザイン2（ファシリテーション）	25
	課題発見・問題解決，発想法	19

	事情	16
	リーダーシップ手法	13
	アジア 概	9
	実務マネジメント	9

3-4-2. 英語コミュニケーションプログラム

平成21年度		
プログラム名	講義名	全受講者数
英語コミュニケーションプログラム	アドバンスト・イングリッシュ	13
平成22年度		
英語コミュニケーションプログラム	アカデミック・ライティング	29
	アカデミックプレ インテーション	19
	アドバンスト・イングリッシュ（前期）	60
	アドバンスト・イングリッシュ（後期）	17
	プレ・アカデミック・イングリッシュ	70
平成23年度		
英語コミュニケーションプログラム	アドバンスト・イングリッシュ（前期・田 ）	26
	アドバンスト・イングリッシュ（前期・上）	57
	アドバンスト・イングリッシュ（後期・田 ）	25
	プレ・アカデミック・イングリッシュ（前期・田）	29
	プレ・アカデミック・イングリッシュ（前期・前田）	61
	プレ・アカデミック・イングリッシュ（後期・田）	2
平成24年度		
英語コミュニケーションプログラム	アドバンスト・イングリッシュ（前期・田 ）	56
	アドバンスト・イングリッシュ（前期・上）	41
	アドバンスト・イングリッシュ（後期・田 ）	22
	プレ・アカデミック・イングリッシュ（前期・田）	11
	プレ・アカデミック・イングリッシュ（前期・前田）	31
	プレ・アカデミック・イングリッシュ（後期・田）	66

3-4-3. MOT 教育プログラム

平成21年度		
プログラム名	講義名	全受講者数
MOT教育プログラム	知的財産及び財務・会計 (MOT 3)	27
平成22年度		
MOT教育プログラム	ベンチャー 業 (MOT 1)	125
	技術戦略 (MOT 2)	38
	知的財産及び財務・会計 (MOT 3)	59
	技術 (MOT 4)	208
	技術 営概 (MOT 5)	50
	MOT (MOT 1)	5
	T T (MOT 2)	11
平成23年度		
MOT教育プログラム	ベンチャー 業 (MOT 1)	97
	技術戦略 (MOT 2)	43
	知的財産及び財務・会計 (MOT 3)	44
	技術 (MOT 4)	97
	イノベーション技術 営 (MOT 5)	65
	M T (MOT 1)	15
	T T (MOT 2)	20
平成24年度		
MOT教育プログラム	ベンチャー 業 (MOT 1)	85
	技術戦略 (MOT 2)	40
	知的財産及び財務・会計 (MOT 3)	38
	技術 (MOT 4)	188
	イノベーション技術 営 (MOT 5)	119
	M T (MOT 1)	6
	T T (MOT 2)	21

3-5. イノベーション研究コース（平成21～24年度の正規授業科目）

3-5-1. 融合領域研究プログラム

平成21年度		
プログラム名	講義名	全受講者数
融合領域研究プログラム	理学融合基 概	23
	計 化学	5
平成22年度		
融合領域研究プログラム	理学融合基 概	33
	プロテオミクス実 法・同実	10
	5研究科 同セミナー（ ）	
平成23年度		
融合領域研究プログラム	理学融合基 概	1
	子情報科学	3
	プロテオミクス実 法・同実	14
	5研究科 同セミナー（ ）	
平成24年度		
融合領域研究プログラム	理学融合基 概	56
	子情報科学	9
	プロテオミクス実 法・同実	22
	5研究科 同セミナー（ ）	

※広島大学の自然科学・技術系研究科(総合科学, 理学, 工学, 先端物質科学, 生物圏科学の「5 研究科」)において開 される学術講 やセミナー等を, 15 以上の出 により, 単位を合 で 定する。

3-6. 実務コアコース（平成25年度の正規授業科目）

平成25年度に、大学院の正 科目として開講している 業科目及び開講部 を次に げる。

3-6-1. 実務キャリアプログラム

業科目名	担 教員名	開講部	開講学期	受講者数
理工系キャリアデザイン1（コミュニケーション・プレゼンテーション）	原田	キャリアセンター （大学院 通科目）	前期	16
理工系キャリアデザイン2 （ファシリテーション）	原田	キャリアセンター （大学院 通科目）	前期	12
課題発見・問題解決，発 法	三 三	若手研究人材養成センター （大学院 通科目）	前期	15
事情	三 三	若手研究人材養成センター （大学院 通科目）	前期	8
実務マネジメントとリーダーシップ	三 三	若手研究人材養成センター （大学院 通科目）	前期	3

3-6-2. 英語コミュニケーションプログラム

業科目名	主担	開講部	開講学期	受講者数
アドバンスト・イングリッシュ	田 光	外国語教育研究センター （大学院 通科目）	前期	49
アドバンスト・イングリッシュ	田	外国語教育研究センター （大学院 通科目）	前期	44
アドバンスト・イングリッシュ	田	外国語教育研究センター （大学院 通科目）	後期	41
アドバンスト・イングリッシュ	上	外国語教育研究センター （大学院 通科目）	前期	27
プレ・アカデミック・イングリッシュ	田 作	外国語教育研究センター （大学院 通科目）	前期	30
プレ・アカデミック・イングリッシュ	田 作	外国語教育研究センター （大学院 通科目）	後期	51
プレ・アカデミック・イングリッシュ	前田	外国語教育研究センター （大学院 通科目）	前期	201

3-6-3. MOT 教育プログラム

業科目名	主担	開講部	開講学期	受講者数
イノベーション技術 営 (MOT 5)	三 三	工学研究科	前期	91
ベンチャー 業 (MOT 1)	三 三	工学研究科	前期	85
技術戦略 (MOT 2)	三 三	工学研究科	後期	45
知的財産及び財務・会計 (MOT 3)	三 三	工学研究科	後期	52
技術 (MOT 4)	山本	工学研究科	前期	222
M T (MOT 1)	三 三	工学研究科	前期	19
T T (MOT 2)	山本	工学研究科	前期	15

3-7. イノベーション研究コース（平成 25 年度の正規授業科目）

3-7-1. 融合領域研究プログラム

業科目名	主担	開講部	開講学期	受講者数
理学融合基 概	山	理学研究科	前期	52
子情報科学	田 子	理学研究科	後期	2
プロテオミクス実 法・同実		理学研究科	前期	15
5研究科 同セミナー()		5研究科 ()		

※広島大学の自然科学・技術系研究科(総合科学, 理学, 工学, 先端物質科学, 生物圏科学の「5 研究科」)において開 される学術講 やセミナー等を, 15 以上の出 により, 単位を合 で 定する。

3-8. セミナー・シンポジウム・講習会

3-8-1. 英語セミナー

英語コミュニケーションプログラムの一環として次のセミナーを開催した。

セミナーの名 及び時間	開 日程	講	参加人数
1 英語セミナー(理工系英語学者の言語運用力向上のためのヒント) (2コマ)	平成22年6月	外国語教育研究センター長 三 教	42
2 英語セミナー(理工系大学院生・研究員のための効 的な英語の方法と自然な英語の運用方法) (4コマ)	平成23年7月	外国語教育研究センター 前田 教	42
3 英語セミナー(理工系大学院生・研究員のための効 的な英語の方法と自然な英語の運用方法) (4コマ)	平成23年7月	外国語教育研究センター 前田 教	53
4 英語セミナー「効 的な英語の方法と自然な英語の運用方法」 (4コマ)	平成24年5月	外国語教育研究センター 前田 教	21
5 英語セミナー「理工系英語学者の言語運用力向上のためのヒント」 (2コマ)	平成24年9月	外国語教育研究センター長 三 教	22
6 英語セミナー「理工系大学院生・研究員のための効 的な英語の方法と自然な英語の運用方法」 (4コマ)	平成24年12月	外国語教育研究センター 前田 教	13
7 英語セミナー「理工系大学院生・研究員のための効 的な英語の方法と自然な英語の運用方法」 (4コマ)	平成25年5月	外国語教育研究センター 前田 教	21
8 英語セミナー「理工系大学院生・研究員のための英語プレ ンテーション・英語 への 」 (4コマ)	平成25年12月	外国語教育研究センター 田 光 教	32
「企業で必要な英語」 クリエイティブス ーキング (14時間)	平成22年3月	(株)アルク教育社	7
「理工系ビジネス英会 」 (18時間)	平成23年3月	(株)インターグループ	6
「企業英語プログラム」 (18時間)	平成24年3月	(株)インターグループ	8
ビジネス英語講 (18時間)	平成24年12月	(株)インターグループ	6
英語ライティングセミナー(15時間)	平成25年3月	(株)インターグループ	8

3-8-2. ストレス・マネジメントセミナー

社会人基礎力の能力要素の一つである「ストレスコントロール力」に関するセミナーを開催した。

セミナーの名 及び時間	開 日程	講	参加人数
1 ストレス・マネジメントセミナー	平成24年2月	立広島大学 総合教育センター 原田 教	15
2 ストレス・マネジメントセミナー	平成24年4月	立広島大学 総合教育センター 原田 教	20
3 ストレス・マネジメントセミナー	平成24年10月	立広島大学 総合教育センター 原田 教	15
4 ストレス・マネジメントセミナー	平成25年4月	立広島大学 総合教育センター 原田 教	17
5 ストレス・マネジメントセミナー	平成25年10月	立広島大学 総合教育センター 原田 教	13

3-8-3. 5研究科共同セミナー

融合領域研究プログラムの一環として、次のセミナーを、5研究科 同セミナーとして開 した。

133 子生 科学セミナー

日時：2009年12月11日()15:00 16:30

場所：理学部 会 室(202室)

講 題目：About theories and methods in computational chemistry

講 者：Dr. Michel Dupuis (Pacific Northwest National Laboratory)

概要：

In this presentation, we will show theories and methods in computational chemistry, and discuss ab initio and classical dynamics studies of proton transfer in complex molecular environments for fuel cell applications in varied regimes of temperature and hydration levels.

134 子生 科学セミナー

日時：2010年9月8日() 15:00 16:30

場所：理学部 301室 (広島大学 東広島キャンパス)

講 題目：Molecular Mechanisms and Spectroscopy in OLEDs

講 者： Prof. N. Periasamy

(Department of Chemical Sciences, Tata Institute of Fundamental Research, Mumbai, INDIA)

概要：

The molecular mechanisms and spectroscopy in Electroluminescence (EL) in solid state Organic light emitting devices (OLED) have many features that are common with Electrochemiluminescence (ECL) in solutions studied in the sixties. In the former, the molecules are static and electrons and holes are mobile

whereas in the latter, molecules are mobile and electrons and holes are static. In spite of the simplicity of underlying mechanisms, our studies on electroluminescence and spectroscopic studies have shown certain unusual features which will be described.

子情報科学連 セミナー(平成22年度)

講 師 :

日程と内容:

合テーマ: 現 在 の自然科学と情報計 算 学との関係 (理 101)

- 1 平成23年2月7日(月)12:50 14:10 現 在 の自然科学と情報学
- 2 平成23年2月7日(月)14:35 16:05 , 計 算 , 計 算 機

合テーマ: 物理学における情報と 計 算 の概念(理 101)

- 3 平成23年2月9日()12:50 14:10 熱力学のエントロピーとマックスウェルのデモン
- 4 平成23年2月9日()14:35 16:05 計 算 力学におけるボルツマン分布とエントロピー

合テーマ: 子情報と 子計 算 のための 子力学 入門 (理 101)

- 5 平成23年2月28日(月)12:50 14:10 子力学の理 式
- 6 平成23年2月28日(月)14:35 16:05 スピンと2 系

合テーマ: 多 子系の 子力学と情報学 (理 101)

- 7 平成23年3月2日()12:50 14:10 多 子系の 子力学
- 8 平成23年3月2日()14:35 16:05 シュミット分解と情報学

合テーマ: 子情報と 子計 算 (理 101)

- 9 平成23年3月8日()12:50 14:10 子情報・ 子計 算 の原理
- 10 平成23年3月8日()14:35 16:05 子情報・ 子計 算 の実現への努力

合テーマ: 学際的な領域におけるC P (理 101)

- 11 平成23年3月9日()9:00 10:30 自然科学と情報計 算 学との学際領域
- 12 平成23年3月9日()10:40 12:10
グローバルに展開する研究開発とC P の仕組みづくり

135 子生 科学セミナー

日時: 2011年3月7日(月)15:45 17:45

場所: 理学部B501室(広島大学 東広島キャンパス)

題目: 所 分子 法による分 項計

講 師 : 田 先生 (田理化学研究所 フェロー)

概要:

クラスター, (HF)クラスターに加 , He₂, Ne₂, Ar₂, S₂₂セット中分 項が 合に寄 している系, ハロ
ン 合, イオン 合, イオン 作用系などについて, 系 的に基 関数依 性
を計 し, 基 関数 を調べる。また, 電子 関法に対するcounterpoise手 がCBIを に補正する
かを 的に検討する。

136 子生 科学セミナー

日時: 2011年3月18日() 10:00 11:30

場所: 理学部E002室 (広島大学 東広島キャンパス)

講 題目: Innovation and the University

講 者: Prof. E. Ann Nalley

2006 President, American Chemical Society

Department of Physical Sciences, Cameron University, Lawton, OK 73505 USA

概要:

Today, personal innovation is more important than ever. Organizations are desperate for creative people who see things differently, who can quickly size up problems and develop creative solutions to them. Or for those who start new businesses then they have to have ideas are critical to their survival and growth. Universities play a key role in supporting innovation as they train future scientists and engineers and they help to recruit the best and brightest into science. Through the years I have had the opportunity to help start 7 new businesses and to work in other businesses with individuals who were highly successful entrepreneurs. Entrepreneurship is often difficult and tricky and many new ventures fail. This presentation will illustrate the role that universities can play in helping to support economic development in their community by assisting in the development of new businesses' in the community and will also discuss the steps we need to take to recruit the best and brightest into the sciences. Many universities have established Centers for Entrepreneurial Studies that take an active role in both training their students in entrepreneurial studies and in supporting new business development and many universities have taken on entrepreneurship as a part of their mission. Cameron University has established a Center for Emerging Technologies and Entrepreneurial Studies (CETES). The operations of this center will be discussed and compared with similar centers across the nation.

137 子生 科学セミナー

日時: 2011年9月12日(月) 10:30 12:00.

場所: 理学部 会 室(E202室) (広島大学 東広島キャンパス).

講 題目:

Research in a National Laboratory in the USA: Multidisciplinary Approach to Energy Research

講 者: Dr. Michel Dupuis (Pacific Northwest National Laboratory)

概要:

In this presentation we will illustrate many facets of computational and experimental research to address fundamental molecular research in new energy transformations. Examples will draw from photocatalysis, proton membrane transport, and homogeneous catalysis to illustrate the role of a variety of theories and methods to get at fundamental issues.

138 子生 科学セミナー

日時: 2012年10月3日() 16:20 17:50

場所: 理学部 305室 (広島大学 東広島キャンパス)

講 題目: トロジカル・インデックスは に生まれ、育って たか

講 者: 先生(お の 女子大学 名 教)

概要:

化 の異性体の構造と、点のような熱力学的な との関係を調べる「構造活性 関」の問題から「トロジカル・インデックス()」のアイデアが生まれたのだが、後に、それが不 化 の電子系を表すヒュッケル分子 法とも な関係にあることが分り、 性の理 的裏付けに援用されるようになった。それとともに、 の数理化学者を し、以上の「トロジカル・インデックス」が提案されるようになったので、この語は一名 として われるようになった。そこで、者の提出したものは「-インデックス」あるいは「 インデックス」と れるようになった。とこ が、この は、化学の問題よりは、初等数学における 問題と に関係するだけでなく、数と の間をつなげる重要な役を果たす事が分って た。講 では、この の基本的な部分の解 、その数学的意味の解 、異分野間の理系のつながりの解析等を べる。

139 子生 科学セミナー

日時: 2012年12月12日() 12:50 16:00

場所: 理学部 104室 (広島大学 東広島キャンパス)

講 題目: 創薬の現場における学際的な研究者の役割

講 者: 大 (田製薬株式会社)

概要:

自然科学と情報計 技法とは融合を めており、医薬品の研究開発においては、融合領域の研究者がとくに重要な役割を果たしている。ヒト ノム解 に く生物医学革 は、画期的な新薬をもたらすと期待されていたが、この1 年、実際に市場に出されている薬は、むし しており、界の製薬企業は、研究開発体制を見 し、この現 を打 しようとしている。このことは が国の製薬会社でも 外ではないが、そこでは、しい環境の中でも、国際的に 力のある企業へとさらなる発展を する努力がなされている。本セミナーでは、そうした製薬企業の 前 で活 されている気 の講 に、子化学をむ、計 化学や情報計 技法が、実際に現場でどのように われているかを解 していただき、そうした研究開発の環境、チームとしての仕事の仕方、められる研究者 など、幅広く具体的に していただく。これによって、薬づくりという究極の目標に、化学や生物学と情報計 との融合技法が、 に活用されているかを理解する。さらに、そうした仕事を通じてのキャリアパスについても、体 を ま た意見を う。学部学生、大学院生、若手研究者などの を する。

140 子生 科学セミナー

日時: 2012 年 12 月 19 日() 13:50 15:20

場所: 理学部 E002室 (広島大学 東広島キャンパス)

講 題目: 多環 役 化合物の 性とその 測方法CMAK

講 者： 井 先生(大学工学部 用化学科・教)

概要:

性の表であるシクロブタジェン(四員環)の連体をはじめ員環(ベンゼン)及びそれらの合体の所性に関しては種の問題が指されている。これら多環役化合物の所性に関し単なケクレ構造の組み合わせ法(CMAK)により測することが可能であることを示し、分子計からめた性指標(IDA)との一を示す。また、NICS等の他の性指標が多環化合物にはな果を示さないことをも示す。

141 子生 科学セミナー

日時:2014年3月5日()10:30 15:45

場所:理学部E002 室 (広島大学 東広島キャンパス)

講 題目:ソフトマターと 系科学の 前

概要:

10:30 10:35 開会の

10:40 11:10 「機ナノシートコロイドが成する」元展義(工業大学)

11:10 11:40 「さな分子が自組織化したオルガノルの構造と物性」山(島大教育)

11:40 12:10 「生体分子ーターをジュールとしたスワーム運動子の創製」(大
学)

13:10 13:40 「全身を目指した高分子ミセル子キャリアの創製」長田 健 (東京大学)

13:40 14:10 「体の圧力 構造 化:高分子 融体の中に」野(大学)

14:10 14:40 「化学 テンシャルの理 計 に基づいた生体分子自組織化の分子機構」原野 一
(大 大学)

14:40 15:10 「中の生体分子間実効 作用: 体的アプローチと大 の アイディ
ア」山 (大学)

15:10 15:40 「れ現象の」山 博 (旭 医科大学)

15:40 15:45 会の

16:00 20:00 研究交 会

20:00 20:10 まとめ

3-8-4. 企業人材セミナー

異分野研究支援プログラムの一環として、主に企業の研究開発部で活している方や人事担当者より、新の研究開発動向や人材活用のを学ことを目的として「企業人材セミナー」(毎、原として、14:30 16:00)を開している。本事業の開始年からこれまでに52 (平成21年度は6、平成22年度は10、平成23年度は12、平成24年度は12、平成25年度は12)開している。セミナーの開前には、大学院生等のキャリアに関して講者とセンタースタッフとが意見・情報交を行っている。セミナー終了後には、講者と参加者の交の場(16:10 17:00)を設けている。また本セミナーの参加

者は養成対象者と学内の大学院生や研究員、教職員に限らず学外にも広く公開しており、広島 や
(財) しま産業振興機構、等 からの参加者もある。

また、講 内容のアーカイブ化(録 保 し、その一部は、講 者の 可を得てHPに公開している)に
努めており、セミナーに参加できなかった養成対象者やプログラムへの参加を する博士人材の教育
として用いている。

平成21年度開 の企業人材セミナー

(日付)	担 企業名	担 者名	参加人数
1 (11月13日)	三菱レイヨン (株)	中 技術研究所 スアイ開発グループ 地	25
2 (11月16日)	旭化成ケミカル ズ(株)	化学・プロセス研究所 原 一博	10
3 (11月18日)	宇部興産(株)	研究開発本部企画管理部 公一	10
4 (11月27日)	(株)三井化学 分析センター	務取 役 構造解析研究部長 正	18
	広島ガス(株)	営 括本部人事部 大井 子	
5 (12月1日)	ナガセケムテッ クス(株)	取 役 企画・管理部部長 山 , 研究開 発本部本部長 研究開発 1部部長 井	16
6 (12月4日)	マツダ(株)	技術研究所 主 研究員 浅井	18

平成22年度開 の企業人材セミナー

(日付)	担 企業名	担 者名	参加人数
7 (5月14日)	(株)トクヤマ	研究開発部門 つく 研究所所長 開発センター所長	28
8 (5月28日)	バブコック日立 (株)	呉研究所 エネルギー研究部 部長 本 明	36
9 (6月11日)	博士の生き方	博士の生き方主 井	28
10 (6月18日)	(株)日本製鋼 所	研究開発本部 本部長 広島研究所長	14
11 (7月16日)	戸田工業(株)	創造本部技 長 元	14
12 (10月15日)	広島大学	産学・地域連携センター 知的財産企画部門長 教 次 一	26
13 (10月29日)	中外テクノス (株)	本部環境技術センター 地 エネルギー事業推進室 室長	14
14 (11月12日)	ダイキョーニシ カワ(株)	行役員 開発本部 本部長 センター長 一成	15
15 (1月19日)	(株)ジェイ・エ ム・エス	研究開発 括 中 研究所 所長 名本	23
16 (3月11日)	(株)サタケ	取 役 技術本部技術 本部長 島 秀	16

平成23年度開 の企業人材セミナー

(日付)	担 企業名	担 者名	参加人数
17 (5月13日)	(株)ヒロテック	総務部人事課 開発部部长 信	15
18 (5月27日)	ダイキョーニシ カワ(株)	D本部 本部長 野田 積	28
19 (6月10日)	宇部興産(株)	研究開発本部企画管理部 研究推進グループリー ダー 公一	23
20 (6月24日)	マツダ(株)	技術研究所 所長 秀	79
21 (10月13日)	ナカシマプロペ ラ(株) ナカシマメディ カル(株)	ナカシマプロペラ(株) 務取 役 ナカシマメディカル(株) 表取 役社長 中島 義	30
22 (10月28日)	三菱レイヨン (株)	中 技術研究所 所長 研究企画推進室長	25
23 (11月11日)	(株)ファーマフ ーズ	総合研究所 開発部 部長 健	26
24 (12月16日)	大 製薬(株)	人事部(研究・生産担)課長 山内	46
25 (1月20日)	三菱重工業 (株)	広島研究所 所長 野島	40
26 (2月3日)	(株)	サニタリー研究所 上 主任研究員 田 博	31
27 (2月22日)	ナガセケムテッ クス(株)	取 役 企画・管理本部 本部長 人事総務部 部長 山	9
28 (3月22日)	三菱電機(株)	先端技術総合研究所 開発戦略部 部長	22

平成24年度開 の企業人材セミナー

(日付)	担 企業名	担 者名	参加人数
29 (5月11日)	新コス ス電機 (株)	総務部人事部 部長 秀	17
30 (5月25日)	バブコック日立 (株)	呉研究所エネルギー研究部 ・ 研究室長 下 三	14
31 (6月8日)	博士の生き方	主 ・工学博士 井	16
32 (6月22日)	旭化成ケミカル ズ(株)	化学・プロセス研究所 所付グループリーダー 原 一博	17
33 (8月3日)	トヨタ紡織(株)	基 研究所バイオ科学領域 プロジェクトマネージャー 田	26
34 (10月15日)	(株)日立製作 所	中 研究所 情報システム研究センタ 主管研究員 原 義	19
35 (11月9日)	(株)トクヤマ	務 行役員 研究開発部門 野	18

44 (6月27日)

担 企業名:日本ハム株式会社

講 タイトル:「研究所の業務 と 社が める人財について」

講 所属・ 名:中 研究所 主任研究員

(参加人数:44)

第44回企業人材セミナー
「研究所の業務紹介と弊社が求める人財について」

平成25年 6月27日(木)
セミナー 14:30～16:00
懇談会 16:10～17:00

東広島キャンパス
生物園科学研究所
C314講義室

講師 藤村 達也 氏
(日本ハム株式会社 中央研究所 主任研究員)

日本ハム株式会社
【本社】広島県広島市東区下江崎9-1-1
【広島支店】広島県広島市東区下江崎9-1-1
【東京支店】東京都中央区銀座4-1-1
【札幌支店】北海道札幌市中央区南一条西5-1
【仙台支店】宮城県仙台市青葉区中央1-1
【名古屋支店】愛知県名古屋市中区栄1-1
【大阪支店】大阪府大阪市北区中之島2-1
【福岡支店】福岡県福岡市中央区天神1-1

※申込み・問い合わせ先
担当 企業人材育成センター(広島 経営・総務)
E-mail: recruitment@hmr.co.jp
TEL: 082-424-4554
URL: <http://www.hmr.co.jp/web/kyosei/>

45 (7月19日) 担 企業名:株式会社サタケ

講 タイトル:「株式会社サタケの事業と 品開発の れ」

講 所属・ 名:取 役 技術本部技術 本部長 島 秀

(参加人数:11)

第45回企業人材セミナー
「株式会社サタケの事業と 品開発の流れ」

平成25年 7月19日(金)
セミナー 14:30～16:00
懇談会 16:10～17:00

東広島キャンパス
工学研究科 CO棟大会議室

講師 松島 秀昭 氏
(株式会社サタケ 取締役 技術本部 技術部長)

株式会社サタケ
【本社】広島県広島市東区下江崎9-1-1
【東京支店】東京都中央区銀座4-1-1
【札幌支店】北海道札幌市中央区南一条西5-1
【仙台支店】宮城県仙台市青葉区中央1-1
【名古屋支店】愛知県名古屋市中区栄1-1
【大阪支店】大阪府大阪市北区中之島2-1
【福岡支店】福岡県福岡市中央区天神1-1

※申込み・問い合わせ先
担当 企業人材育成センター(広島 経営・総務)
E-mail: recruitment@satagroup.co.jp
TEL: 082-424-4554
URL: <http://www.satagroup.co.jp/web/kyosei/>

46 (10月18日)

担 企業名:株式会社明

講 タイトル:「企業における研究と期待される人材 」

講 所属・ 名:大 工場 工場長 野

(参加人数:101)

第46回企業人材セミナー
「企業における研究と期待される人材像」

平成25年 10月18日(金)
セミナー 14:30～16:00
懇談会 16:10～17:00

東広島キャンパス
生物園科学研究所C314講義室

講師 古谷野 哲夫 氏
(株式会社明治 大工場 工場長)

株式会社明治
【本社】東京都中央区銀座4-1-1
【東京支店】東京都中央区銀座4-1-1
【札幌支店】北海道札幌市中央区南一条西5-1
【仙台支店】宮城県仙台市青葉区中央1-1
【名古屋支店】愛知県名古屋市中区栄1-1
【大阪支店】大阪府大阪市北区中之島2-1
【福岡支店】福岡県福岡市中央区天神1-1

※申込み・問い合わせ先
担当 企業人材育成センター(広島 経営・総務)
E-mail: recruitment@meiji.co.jp
TEL: 082-424-4554
URL: <http://www.meiji.co.jp/web/kyosei/>

47 (11月1日)

担 企業名:マツダ株式会社

講 タイトル:「マツダの研究開発の取り組みと める人財について」

講 所属・ 名:技術研究所 所長 高見 明秀

(参加人数:52)

第47回企業人材セミナー
「マツダの研究開発の取り組みと 求める人財について」

平成25年 11月1日(金)
セミナー 14:30～16:00
懇談会 16:10～17:00

東広島キャンパス
工学研究科
E02講義室

講師 高見 明秀 氏
(マツダ株式会社 技術研究所 所長)

マツダ株式会社
【本社】広島県広島市東区下江崎9-1-1
【東京支店】東京都中央区銀座4-1-1
【札幌支店】北海道札幌市中央区南一条西5-1
【仙台支店】宮城県仙台市青葉区中央1-1
【名古屋支店】愛知県名古屋市中区栄1-1
【大阪支店】大阪府大阪市北区中之島2-1
【福岡支店】福岡県福岡市中央区天神1-1

※申込み・問い合わせ先
担当 企業人材育成センター(広島 経営・総務)
E-mail: recruitment@mazda.co.jp
TEL: 082-424-4554
URL: <http://www.mazda.co.jp/web/kyosei/>

48 (11月15日)

担 企業名:カメ株式会社

講 タイトル:「野の に せられて

ーカメにおける研究・開発への挑戦ー」

講 所属・ 名:元総合研究所 主 研究員 博

(参加人数:79)



49 (12月6日)

担 企業名:日本ユニシス株式会社

講 タイトル:「ホンネで そう・・・企業が める人材とは」

講 所属・ 名:中国支 支 長 田

(参加人数:29)



50 (12月19日)

担 企業名:三菱重工業株式会社

講 タイトル:「エネルギー・環境関連研究の動向と

企業における若手研究者の める 」

講 所属・ 名:広島研究所 所長 野島

(参加人数:23)



51 (1月23日)

担 企業名:キリン株式会社

講 タイトル:「企業における先端研究とは 自らの から 」

講 所属・ 名:基 技術研究所 所長

(参加人数:16)



52 (2月7日)

担 企業名: ホトニクス株式会社

講 タイトル:「光による新産業創成ー研究、 けること, 社会」

講 所属・ 名:中 研究所 主任部員 義

(参加人数:23)



3-8-5. 若手研究人材養成シンポジウム

異分野研究支援プログラムの一環として、イノベーション創出をいかに推進するかの手がかりを 見、また、地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画を内外にア ールし、理解と協力・支援を得ることに より、プログラムの 実と発展を図ることを目的として、若手研究人材養成シン ジウムを開 した。

1 広島大学若手研究人材養成シン ジウム (参加者:91名)

日時:平成21年12月9日()13:00 16:50

場所:広島大学ライブラリーホール(東広島キャンパス中 図書 内)

13:00 主 者 (浅原 利正 広島大学長)

13:10 特別講 (山本 三菱レイヨン株式会社中 技術研究所長)

「 ある の ち主に 然の は む」

14:10 特別講 (M D A D P)
T S A

15:20 取組の と討

コーディネーター: 田 子(若手研究人材養成センター センター長)

・「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」の

・連携企業の方 及び人材養成システム受講者を交 た討

17:00 情報交 会

2 広島大学若手研究人材養成シン ジウム (参加者:70名)

日時:平成 23 年 3 月 9 日() 13:30 14:35

場所:広島大学学士会 レセプションホール(東広島キャンパス)

13:30 主 者

本 若手研究人材養成センター長 理事・ 学長(社会連携・広報・情報担)

13:45 14:35 特別講 原 修一 国立教育 研究所 高等教育研究部長

「大学院教育の実質化と博士人材」

17:15 情報交 会

3 広島大学若手研究人材養成シン ジウム (参加者:45名)

日時:平成 24 年 3 月 8 日() 13:30 14:25

場所:広島大学 本部 4 会 室(東広島キャンパス)

13:30 主 者

本 若手研究人材養成センター長 理事・ 学長(社会連携・広報・情報担)

13:35 14:25 特別講 見 パイオニア人材育成ステーション 特任教

「 大学の取組・教員と院生の意識改革」

17:50 情報交 会

4 広島大学若手研究人材養成シン ジウム (参加者:71名)

日時:平成 25 年 3 月 11 日(月) 13:00 14:50

場所:広島大学(東広島キャンパス)中 図書 ライブラリーホール

13:00 13:05 主 者

本 若手研究人材養成センター長 理事・ 学長(社会産学連携・広報・情報担)

13:05 13:50 特別講 (1)

子 日立製作所株式会社 研究開発本部 技術戦略室 担 本部長

どんな博士人材が日本 にとって必要か

13:50 14:50 特別講 (2)

東京大学 ビジョン研究センター 特任教

グローバルな 点をもつ,ということ

17:45 情報交 会

5 広島大学若手研究人材養成シン ジウム (参加者:77 名)

日 時: 平成 26 年 3 月 5 日() 13:00 14:30

会 場: 広島大学中 図書 ライブラリーホール(東広島キャンパス)

13:00 開会 浅原 利正 広島大学長

13:05 部科学

・基調講

正 独立行 法人科学技術振興機構 科学技術システム改革事業プログラム主管

・ 待講

合 メドエルジャパン株式会社(期(平成 23 年 4 月期)生)

・事業の報告と 後の展

田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長(大学 営企画担)

17:30 情報交 会



3-8-6. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム

異分野研究支援プログラムの一環として、融合領域研究の英語による発表で構成するナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウムを開いている。英語による発表をした学生のうち、一参加者のにより、The Best Student Presentation Award(3名)と Student Award(3名)を、毎年、授けている。

The 6th Nano Bio Info Chemistry Symposium (参加者:87名)

日時:平成21年12月12日()9:50 13日(日)12:10

場所:広島大学学士会 レセプションホール(東広島キャンパス)

一 講 : 22件 (内:学生の発表14)

特別講 : 5件

Hans-Ullrich Siehl (University of Ulm)

“Quantum Chemical Investigation Of Carbon-Carbon Spin-Spin Coupling Constants”

Wolfram Sander (Ruhr-Universität)

“Characterization of High-Spin Polyradicals”

Elsa Sanchez-Garcia (Max-Planck-Institut für Kohlenforschung)

“QM/MM Study of the Structural and Spectroscopic Properties of Monomeric Red Fluorescent Proteins”

Curt Wenstrup (The University of Queensland)

“Reactive and Unusual Molecules”

AnnMarie C. O'Donoghue (University Science Laboratories)

“N-Heterocyclic Carbenes in Organocatalysis”

The 7th Nano Bio Info Chemistry Symposium (参加者:113名)

日時:平成22年12月4日()9:50 5日(日)12:00

場所:広島大学学生会 レセプションホール(東広島キャンパス)

一 講 : 22件 (内:学生の発表16)

特別講 : 2件

Mark Haley (大学 産学連携 知的財産機構マルチキャリアセンター 特任教)

“America's Amazing Entrepreneurial Engine and Customizing this Model to Increase Jobs / Innovation in Japan”

Shin Yokoyama (広島大学 ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 教)

“Silicon Nanodevices and Their Bio Application”

The 8th Nano Bio Info Chemistry Symposium (参加者:100名)

日時:平成23年12月10日()9:50 11日(日)12:30

場所:広島大学学生会 レセプションホール(東広島キャンパス)

一 講 : 22件 (内:学生の発表19)

特別講 : 1件

Prof. Marek J. Wójcik (Jagiellonian University, Poland)

“Dynamic interactions in vibrational spectra and multidimensional proton tunneling in hydrogen-bonded systems”

The 9th Nano Bio Info Chemistry Symposium (参加者:98名)

日時:平成24年12月8日()9:50 9日(日)12:30

場所:広島大学学生会 レセプションホール(東広島キャンパス)

一 講 : 28件 (内:学生の発表24)

特別講 : 5件

Prof. Inara E. Alidzanova (Orenburg University)

“Endolmetalofullerene influence on the bacterial populations Escherihia coli”

Prof. Sergey N. Letuta (Orenburg University)

“Orenburg University”

Prof. Vitaly L. Berdinskiy (Orenburg University)

“New spin dependent processes in physics, chemistry and molecular biology”

Prof. Ludmila V. Dokashenko (Orenburg University)

“Japan culture center of the Orenburg University”

Prof. Sergey N. Letuta et al. (Orenburg University)

“Delayed Fluorescence of Exogenous Phosphors in Tissues”

The 10th Nano Bio Info Chemistry Symposium (参加者:87名)

日時:平成25年12月14日()9:50 15日(日)12:30

場所:広島大学学士会 レセプションホール(東広島キャンパス)

一 講 : 23件 (内:学生の発表19)

特別講 : 1件

Man Hoi Wong(University of California, National Institute of Information and Communications Technology)

“Wide-Bandgap Nitride- and Oxide-Based Electronics – Vision, Challenges, and Opportunities”

3-8-7. 中国四国産学連携フォーラム

異分野研究支援プログラムの一環として、日本化学会中国四国支部および中国・四国産学連携会の主である「中国四国産学連携化学フォーラム」をしている。

54 中国四国産学連携化学フォーラム イノベーション創出と人材育成 (参加者:60名)

日時:平成23年4月8日()13:00 17:10

場所:広島大学理学部大会室(東広島キャンパス)

主 : 日本化学会中国四国支部, 中国四国化学と工業 会

: 広島大学若手研究人材養成センター

13:00 13:10 主 者 中国四国化学と工業 会 会長 公一(宇部興産株式会社)

13:10 14:00 マツダ株式会社 技術研究所 所長 秀

「マツダのグローバルな取り組みと める博士人材について」

14:00 14:50 三菱レイヨン株式会社 中 技術研究所 所長

「A T 社会を実現する研究開発と める人材」

15:00 15:50 旭 子株式会社 中 研究所 特任研究員 高田

「ガラス会社におけるシミュレーション技術の活用と人材の重要性」

15:50 16:20 広島大学若手研究人材養成センター センター長 田 子

「広島大学の博士人材養成の取り組み」

16:20 17:10 総合討

17:30 19:30 意見交 会

55 中国四国産学連携化学フォーラム 化学業界の人材育成
(参加者:89名)

日時:平成24年4月13日()13:20 17:00

場所:広島大学理学部大会室(東広島キャンパス)

主 : 日本化学会中国四国支部, 中国四国化学と工業 会

:広島大学若手研究人材養成センター

13:20 13:30 主 者
中国四国化学と工業 会 会長 中 (三菱化学株式会社)

13:30 14:20 基調講
中国 産業 地域 部長 男
「地域 活性化と人材育成について」

14:30 15:30 大学の取組み
山 大学 イノベーション人材育成支援室長
「山 大学におけるイノベーション人材育成支援の取組み」
山大学 若手研究者キャリア支援センター センター長
「山大学におけるドクター・キャリアサポートプログラムの 」
広島大学 若手研究人材養成センター センター長 田 子
「広島大学の博士人材養成の取組み」

15:40 16:40 企業の人材育成
戸田工業株式会社 創造本部技 長 元
「戸田工業(株)の開発系人材育成」
宇部興産株式会社 研究開発本部企画管理部研究推進グループ 公一
「宇部興産(株)における人材育成」
三菱レイヨン株式会社 中 技術研究所 所長
「三菱レイヨン(株)の人材育成」

16:40 17:00 総合討

17:30 19:30 意見交 会

3-8-8. 企業見学会

異分野研究支援プログラムの一環として、企業人材セミナーで 題を提 いただいた連携企業を中 に、実際に企業現場を 問する学外実 を行っている。

1 企業見学会（参加者4名）

平成22年1月7日（ ） による 動

14:00 17:30 三菱レイヨン株式会社 大 事業所

2 企業見学会（参加者18名）

平成23年6月28日（ ） バスによる 動

9:50 12:15 株式会社 H 呉 工場（ 機ジェットエンジン設計・製作）

15:15 17:10 ナカシマプロペラ株式会社 島工場(用プロペラ設計・製作)

3 企業見学会（参加者21名）

平成23年11月14日(月) バスによる 動

13:00 14:00 日本 行広島支

14:30 17:00 三菱重工株式会社広島製作所(機械工作, 医療機器, 機器設計・製作)

4 企業見学会（参加者16名）

平成25年7月29日(月) バスによる 動

13:00 14:00 アトム株式会社本社(製品, 製造業, ム製品(各種作業用手 ・作業用 物・ 下等の製造))

14:30 16:30 三井 属 業株式会社 原製 所(属(電子材 事業, 属事業, 環境事業, 機械部品事業))



3-8-9. ビジネスマナー講習会

企業派遣プログラムの一環として、社会人としての基本的なマナーを身につけることを目的としたビジネスマナー講習会を開いている。平成 23 年度には 1 として外部業者を活用した 1 日間の講習を実施した。また、大学職員の初任者を対象とした外部講習による研修会にも参加できる仕組み作りをすすめ、平成 24 年度には長期取組前に 2 名、平成 25 年度には 6 名が研修に参加した。

平成23年度

1 ビジネスマナー講習会

平成 24 年 2 月 18 日() (1 日目) 参加者 8 名

平成 24 年 2 月 25 日() (2 日目) 参加者 7 名

会場：学生プラ 4 多目的ルーム

講師：アソウ・ヒューマニーセンターより派遣

内容：

ー1 日目ー

第1章 オリエンテーション（研修のねらい、自己紹介）

第2章 社会人としての心構え（企業とは、働くとは、社会人と学生の違い）

第3章 ビジネスマナーの重要性（第1印象の重要性、実践トレーニング）

第4章 ビジネス会話（正しい言葉遣い・敬語について、ビジネス文書・メールの送受信）

第5章 コミュニケーションの重要性（原則、指示の受け方・報告の仕方）

第6章 まとめ（質疑応答、2 日目の目標）

ー2 日目ー

第1章 オリエンテーション（1 日目の振り返り、2 日目の目標について）

第2章 電話対応の基本（電話対応の役割、電話対応の注意点、実践トレーニング）

第3章 来客対応の基本（来客対応の流れ、名刺交換について、実践トレーニング）

第4章 まとめ（質疑応答、個人目標設定）

参加した被養成者の感想（抜粋）：

・インターン先とは異なり研究室の生活では、はっきりした上下関係を感じることもなく自覚不足であり、マナーの重要性を感じていなかった。研究室での生活が長く、研究に関する実力が重視されるといってこいだったが、改めて前々をキチンと行うことの重要性を理解した。

・ビジネスマナーが社会に受け入れていただくためのパスポートであることを認識し、身だしなみからビジネス会におけるマナーまで幅広く実践形式で学べるよい機会であった。職場で受け入れていただくために必要な条件だと改めて認識した。

平成24年度広島大学ビジネスマナー研修(被養成者2名が参加)

日時:平成24年6月27日()9時 16時

会場:本部 会 室

講 :株式会社 アソウ・ヒューマニーセンター

- | | |
|---|--|
| <p>1 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の らい 研修の目的 <p>2 の仕事とは プロとしての 構</p> <ul style="list-style-type: none">・組織とは, くとは・仕事の基本 職場の報・連・・ の重要性 お 様が めるサー <p>ビスとは</p> <ul style="list-style-type: none">・現 を振り って サービス度レベルチェック <p>ビジネスマナーの重要性 ロールプレー</p> <p>イング</p> <ul style="list-style-type: none">・ビジネスマナーとは・ 一 象と身だしなみ・表情, , お・ ビジネス会・ 語の い方 | <ul style="list-style-type: none">・ 感の てる し方 <p>5 電 対の基本</p> <ul style="list-style-type: none">・現 を振り る スキルチェック・ビジネス電 の重要性 <p>電 対の基本 ロールプレーイング</p> <ul style="list-style-type: none">・電 の受け方・かけ方・クレーム 対について・ コミュニケーションの重要性・コミュニケーションの原・コミュニケーション ーム・ 対の基本 ロールプレーイング・名 交 ・ 次について・ 対の れと イント, 案内・お のお <p>もてなし</p> <p>まとめ (報告書作成)</p> |
|---|--|

平成25年度広島大学ビジネスマナー研修(被養成者6名が参加)

日時:平成25年5月23日()9時 16時

会場:本部 会 室

講 :株式会社 アソウ・ヒューマニーセンター

- | | |
|---|---|
| <p>1 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の らい 研修の目的 <p>2 の仕事とは プロとしての 構</p> <ul style="list-style-type: none">・組織とは, くとは・ の重要性 お 様が めるサー <p>ビスとは</p> <ul style="list-style-type: none">・現 を振り って サービス度レベルチェック <p>ビジネスマナーの重要性 ロールプレー</p> <p>イング</p> <ul style="list-style-type: none">・ビジネスマナーとは・ 一 象と身だしなみ・表情, , お・ ビジネス会・ 語の い方・ 感の てる し方 | <p>5 電 対の基本</p> <ul style="list-style-type: none">・現 を振り る スキルチェック・ビジネス電 の重要性 <p>電 対の基本 ロールプレーイング</p> <ul style="list-style-type: none">・電 の受け方・かけ方・クレーム 対について・ コミュニケーションの重要性・コミュニケーションの原・コミュニケーション ーム・ 対の基本 ロールプレーイング・名 交 ・ 次について・ 対の れと イント, 案内・お のお <p>もてなし</p> <p>まとめ (報告書作成)</p> |
|---|---|

3-8-10. 企業派遣プログラム成果報告会

被養成者、企業メンター、学内メンターによる企業派遣プログラム(長期取組(インターンシップ))の成果の報告は、これから企業派遣プログラムに取り組もうとする企業、教員、学生に対して「いい指」となる。そこで、企業派遣プログラムの一環として、被養成者、企業メンター、学内メンターの三者による、企業派遣プログラム成果報告会を開いている

1 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:55 名)

日時:平成 22 年 3 月 11 日() 14:00 16:35

場所:広島大学中 図書 ライブラリーホール(東広島キャンパス中 図書 内)

プログラム:

12:50 13:50 連携企業連 会

14:00 14:05 開会

本 若手研究人材養成センター長 理事・ 学長(社会連携・広報・情報担)

14:05 15:05 養成対象者による企業派遣プログラム報告

PD 期生

通 DC 期生(大学院理学研究科博士課程後期 2 年)

本 秀 DC 期生(大学院理学研究科博士課程後期 2 年)

15:05 15:35 メンターによる企業派遣プログラム報告

山 大学院医歯薬学総合研究科 教

田 正 大学院理学研究科 教

15: 5 1 :00 企業派遣プログラム・受入企業担 者報告

東洋紡績株式会社 総合研究所 シミュレーションセンター主

16:00 1 :30 質

コーディネーター 田 子(若手研究人材養成センター センター長)

16:30 1 :35 会

田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長補 (的 担)

17:20 18:50 情報交 会

2 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:52 名)

日時:平成 22 年 9 月 28 日() 13:00 16:50

場所:広島大学本部 会 室(東広島キャンパス)

プログラム:

13:00 13:05 開会

本 若手研究人材養成センター長 理事・ 学長(社会連携・広報・情報担)

13:05 15:05 養成対象者による企業派遣プログラム報告

PD 期生

大 洋 PD 期生
 部 DC 期生(大学院理学研究科博士課程後期2年)
 DC 期生(大学院工学研究科博士課程後期2年)
 三 子 PD 期生
 15:15 16:15 企業派遣プログラム受入企業担当者報告
 次 国際特 事務所 広島事務所 表
 株式会社エネルギア・エコ・マテリア 技術部長
 本 大 株式会社特殊免疫研究所 務取 役
 16:15 16:45 質
 コーディネーター 若手研究人材養成センター 特任教
 16:45 16:50 会
 田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長補 (的 担)

3 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:70名)

日時:平成23年3月9日() 14:35 17:15

場所:広島大学学士会 レセプションホール(東広島キャンパス)

14:35 15:15 養成対象者による企業派遣プログラム報告
 原田 DC 期生(大学院生物圏科学研究科博士課程後期3年)
 DC 期生(大学院工学研究科博士課程後期2年)
 15:30 16:10 企業派遣プログラム受入企業担当者報告
 健 株式会社ファーマフーズ総合研究所 S 事業部 担 部長
 平 株式会社日立中国ソリューションズ 産業ソリューション部 担 部長
 16:10 16:50 学内メンターによる企業派遣プログラム報告
 明 大学院生物圏科学研究科 教
 正 大学院工学研究科 教
 16:50 17:10 質
 コーディネーター 若手研究人材養成センター 特任教
 17:10 17:15 会
 田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長補 (的 担)

4 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:54名)

日時:平成23年9月28日() 13:30 16:50

場所:広島大学中 図書 ライブラリーホール(東広島キャンパス)

13:30 13:35 開会
 田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長補 (的 担)
 13:35 14:55 養成対象者による企業派遣プログラム報告
 大 PD 期生

英 DC 期生(大学院生物圏科学研究科博士課程後期 3 年)
 英男 DC 期生(大学院理学研究科博士課程後期 2 年)
 合 DC 期生(大学院理学研究科博士課程後期 3 年)

15:10 15:40 企業派遣プログラム受入担 者報告
 株式会社あじかん 人事総務部人事課 課長
 メドエルジャパン株式会社 ネラルマネージャー

15:40 16:00 学内メンターによる企業派遣プログラム報告
 山 博 大学院生物圏科学研究科 教
 大学院理学研究科 教

16:00 16:35 質
 コーディネーター 若手研究人材養成センター 特任教

16:35 16:50 修了式

16:50 16:55 会 地 理事(社会連携担)

5 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:45名)

日時:平成 24 年 3 月 8 日() 14:25 17:35

場所:広島大学本部 会 室(東広島キャンパス)

14:25 15:45 養成対象者による企業派遣プログラム報告
 前田 PD 期生
 原 光 PD 期生
 DC 期生(大学院工学研究科博士課程後期 3 年)
 DC 期生(大学院先端物質科学研究科博士課程後期 2 年)

16:00 16:30 企業派遣プログラム受入企業担 者報告
 元 戸田工業株式会社 創造本部 技 長

16:30 17:00 学内メンターによる企業派遣プログラム報告
 大学院理学研究科 教
 田 大学院工学研究院 教

17:00 17:20 質
 コーディネーター 若手研究人材養成センター 特任教

17:20 17:30 修了式

17:30 17:35 会
 田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長補 (的 担)

6 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:43 名)

日時:平成 24 年 9 月 14 日() 13:30 17:00

場所:広島大学中 図書 ライブラリーホール(東広島キャンパス)

13:30 14:55 開会

本 若手研究人材養成センター長 理事・ 学長(社会産学連携・広報・情報担)

13:35 14:55 養成対象者による企業派遣プログラム報告

三 DC 期生(大学院理学研究科博士課程後期3年)

PD 期生

合 子 DC 期生

(大学院生物圏科学研究科博士課程後期2年)

施 DC 期生

(大学院国際協力研究科博士課程後期3年)

15:10 15:40 企業派遣プログラム受入企業担 者報告

株式会社サタケ 技術本部選別・計測・計 グループリーダー

中 子 エオリア・ウォーター・ソリューション テクノロジー株式会社 管理部人事・総務 主任

15:40 16:10 学内メンターによる企業派遣プログラム報告

中 信 大学院国際協力研究科 教

島田 大学院生物圏科学研究科 教

田中 一 国際協力研究科 特任教

16:10 16:35 質

コーディネーター 若手研究人材養成センター 特任教

16:35 16:50 修了式

16:50 16:55 会

田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長補 (大学 営企画担)

7 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:71名)

日時:平成25年3月11日(月) 15:00 17:30

場所:広島大学(東広島キャンパス)中 図書 ライブラリーホール

15:00 16:20 養成対象者による報告

田 期生 若手研究人材養成センター研究員

(受入先: テック)

三原 期生 若手研究人材養成センター研究員

(受入先: 亀田製菓)

A D S 期生 若手研究人材養成センター研究員

(受入先: アビー)

平野 期生 大学院工学研究科博士課程後期3年

(受入先: 日本光電工業)

強 期生 大学院工学研究科博士課程後期2年(受入先: サイボウズ)

16:20 16:40 受入企業担 者報告

日本光電工業株式会社 テレメトリー技術センター バイタルセンサ部 部長

下 株式会社テック 取 役 技術開発部長 製造部長

16:40 17:00 メンターによる報告
 英 大学院工学研究院 教
 田 大学院医歯薬保健学研究院 教
 17:00 17:20 質
 17:20 17:25 修了式
 17:25 17:30 会
 田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長補 (大学 営企画担)



第7回 成果報告会



修了式 (H25,3,11)

8 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:54 名)
 日時:平成 25 年 9 月 20 日 () 13:30 16:20
 場所:広島大学(東広島キャンパス)本部 会 室
 13:30 開会
 本 若手研究人材養成センター長 理事・ 学長
 (社会産学連携・広報・情報担)
 13:35 養成対象者による報告
 山 期生 大学院工学研究科博士課程後期 3 年
 (受入先:中国セントラルコンサルタント株式会社)
 合 期生 大学院生物圏科学研究科博士課程後期 3 年
 (受入先:ラボテック株式会社)
 山 期生 若手研究人材養成センター研究員
 (受入先:株式会社生体分子計測研究所)
 14:45 企業受入担 者による報告
 前 中国セントラルコンサルタント株式会社 表取 役
 山田 株式会社ラボテック 新事業開発室 室長

山本 株式会社生体分子計測研究所 先端計測解析センター 課長

15:30 メンターによる報告

大学院生物圏科学研究科 教

15:40 質

16:10 修了式

16:15 会

田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長(大学 営企画担)



第8回 成果報告会



修了式 (H25,9,10)

9 企業派遣プログラム成果報告会 (参加者:77 名)

日時:平成 26 年 3 月 5 日() 14:40 17:15

場所:広島大学中 図書 ライブラリーホール(東広島キャンパス)

14:40 養成対象者による報告

光 期生 大学院理学研究科博士課程後期

3 年 (受入先:株式会社サタケ)

井 期生 大学院理学研究科博士課程後期

2 年 (受入先:株式会社東京カンテイ)

健 株式会社 HGST ジャパン(平成 25 年 12 月より

現職)(期生 若手研究人材養成センター研究員)

期生 若手研究人材養成センター研究員

(受入先:ダイヤ工業株式会社)

期生 大学院理学研究科博士課程後期

3 年 (受入先:旭化成ケミカルズ株式会社)

15:30 企業受入担 者による報告

原 正 株式会社サタケ 技術本部 選別・計測グループ グループ長



株式会社東京カンテイ データ事業本部 不動産調査部 部長
大 株式会社 HGST ジャパン ッド・メディアインテグレーション 括部 CM 材 技
術開発部 部長

ダイヤ工業株式会社 研究部門 アシスタントマネージャー
下田 義 旭化成ケミカルズ株式会社 化学・プロセス研究所 主 研究員

16:20 メンターによる報告

原 大学院理学研究科 教
島田 光科学研究センター 教

16:40 質

17:05 会

本 若手研究人材養成センター センター長 理事・ 学長(社会産学連携・広報・情報担
)

17:10 修了式

17:30 情報交 会



第9回 成果報告会



修了式 (H26,3,5)

4. 若手研究人材の養成支援

4-1. ホームページ

本学の公式ウェブサイトに、若手研究人材養成センターのサイトを作成しており、公式サイトのトップページから、ワンクリックでリンクさせている。本事業の取組内容は、若手研究人材養成センターのサイトに公開し、セミナー参加者 集や被養成者 集などのお知らせも随時 載している。また、本学の若手研究者が発表する の情報を サイトに 載し、毎 新している。

本事業のオリジナルホームページも構築しており、そこには、より な内容や連携企業の情報を 載している。また、アチーブメントカードシステムにリンクしている。

若手研究人材養成センターのホームページ(URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/>)

広島大学 若手研究人材養成センター

English 中文 交通アクセス・地図 お問い合わせ サイトマップ サイト内検索

平成26年度広島大学特別研究員を公募します(2/28 15時締切)

事業

- 実践プログラム
- 企業人材セミナー
- 企業見学会
- インターンシップ・連携企業
- 報告書・パンフレット
- 博士人材キャリア相談室
- 求人コーナー

説明

- センターについて
- 若手人材の養成計画
- 女性研究者研究活動支援事業(拠点型)
- お問い合わせ先・アクセス
- リンク
- 若手研究人材システムオンライン登録
- センターのオリジナルHPへ

文部科学省・JST 博士人材キャリア開発サイト

若手研究人材養成センター

広島大学の若手人材養成に関連した取組

- ・科学技術人材育成費補助金「ポストドクター・キャリア開発事業(イノベーション創出若手研究人材養成)」(文部科学省)『地方協賛による挑戦する若手人材の養成計画』(平成21年度～平成25年度)
- ・科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」

広島大学若手研究者論文情報

2013.1.1～2014.1.3 (計619件) new

Professional 先生の流儀

広島大学で活躍する先生方にインタビュー 語れなかった研究秘話、指導方針に迫ります

To be Professional Dの飛翔

理系研究所風のD学生にインタビュー 研究のやりがいなどについて伺いました!

研究留学 Challenge! 海外で研究をしたい

第10回 工学研究院 教授 杉本 俊多先生

第11回 理学研究科 准教授 木村 昭夫先生

第13回 医歯薬保健学研究院 生体環境適応科学研究室 D3 猪村 剛さん

第14回 生物圏科学研究科 環境化学・環境分析化学研究室 D3 万代 小百合さん

第2回 理学研究科 物理科学専攻 D3 黒田 健太さん

第3回 工学研究科 D1 松尾 薫さん

4-2. 研究室等紹介

平成 24 年度から新規の企画として、博士人材や教員へのインタビューをホームページから学内の学生に発信することに取り組んだ。

学内への当センター事業の普及促進をねらっており、これまでのインターンシップの実績等も紹介している。インタビュアーは、学内普及と企画の斬新さの期待の面から、学内公募により学生を選抜した。タイトルを含めた構成は、学生の自主的な企画作りの結果である。

4-2-1. 博士人材インタビュー

－ TO BE PROFESSIONAL 「D」の飛翔－

第 1 回(平成 24 年 12 月 3 日取材・平成 24 年 12 月 17 日 HP 掲載)

工学研究科 生体システム論研究室

D3 平野 陽豊 さん

(当センター第VI期養成者)

研究を始めたきっかけ / 研究内容

/ 研究室の特色や環境 / 就職

/ 今後の展望



第 2 回(平成 25 年 1 月 10 日取材・平成 25 年 1 月 24 日 HP 掲載)

理学研究科 光物性研究室

D3 内海 有希 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容

/ 研究室の特色や環境 / 就職

/ 研究のやりがい / 今後の展望



第 3 回(平成 25 年 1 月 22 日取材・平成 25 年 3 月 4 日 HP 掲載)

先端物質科学研究科

量子半導体工学研究室

D2 酒池 耕平 さん

研究を始めたきっかけ / D 進学の決め手は

/ 研究内容 / 研究室の特色 / 研究環境

/ 研究のやりがい /



第4回(平成25年2月13日取材・平成25年3月4日HP掲載)

工学研究科 応用有機化学研究室

D3 中野 正浩 さん

研究内容 / 研究を始めたきっかけ

/ 博士課程取得後 / 研究室の特色

/ 卒業生の進路 / 研究環境

/ 今後の展望 / 今後博士課程進学を目指す人へ



第5回(平成25年2月7日取材・平成25年3月12日HP掲載)

理学研究科 有機典型元素化学研究室

D2 福圓 真一 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容

/ 研究室の特色 / 研究環境

海外に興味をもったきっかけ

博士人材であることの価値



第6回(平成25年2月27日取材・平成25年3月18日HP掲載)

工学研究科 環境触媒化学研究室

D3 板倉 正也 さん

研究内容 / 研究を始めたきっかけ /

研究室の特色や研究環境 / 先生の指導方針 /

就職 / 研究のやりがい



第7回(平成25年3月6日取材・平成25年4月22日HP掲載)

先端物質科学研究科 半導体集積科学専攻

D3 久保田 光 さん

研究内容 / 研究を始めたきっかけ /

研究室の特色や先生の指導方針 / 研究環境 /

就職 / 研究のやりがい



第8回(平成25年4月22日取材・平成25年5月13日HP掲載)

理学研究科 現象数理学研究室

D3 新屋 啓文 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容 /

D 進学の決め手 / 研究のやりがい /

先生の指導方針や研究室の特色 / 研究環境 /

就職 / 今後の展望 /

博士人材であることの価値 / 博士課程進学を目指す人へ



第9回(平成25年6月11日取材・平成25年8月9日HP掲載)

医歯薬学総合研究科 生薬学研究室

D3 上村 有加 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容 /

先生の指導方針や研究室の特色 / 就職 /

研究のやりがい / 女性研究者としての心構え /

博士課程進学を目指す人へ / 今後の展望 /



第10回(平成25年7月16日取材・平成25年8月23日HP掲載)

理学研究科 表層環境地球化学研究室

D3 中田 亮一 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容 /

先生の指導方針や研究室の特色 / 研究環境 /

就職 / 研究のやりがい /

今後の展望 / 博士課程進学を目指す人へ /



第11回(平成25年7月23日取材・平成25年9月27日HP掲載)

工学研究科 輸送・環境システム専攻

構造システム研究室

D3 貞本 将太 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容 /

博士課程進学の決め手 /

先生の指導方針や研究室の特色 / 研究環境 /

就職 / 研究のやりがい / 今後の展望 /



第12回(平成25年9月13日取材・平成25年11月5日HP掲載)

先端物質科学研究科 分子生命機能科学専攻

D3 河内 護之 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容 /
博士課程進学を決め手 /
先生の指導方針や研究室の特色 / 研究環境 /
海外発表を行った時の印象 / 就職 /
研究のやりがい / 今後の展望 /

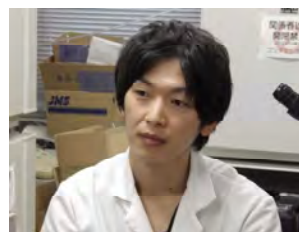


第13回(平成25年10月23日取材・平成25年11月22日HP掲載)

医歯薬保健学研究院 生体環境適応科学研究室

D3 猪村 剛 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容 /
研究のやりがい / 先生の指導方針や研究室の特色
研究環境 / 就職 /
海外発表を行った時の印象 / 就職 /
博士課程進学を決め手 / 今後の展望 /



第14回(平成26年2月3日取材)

生物圏科学研究科 環境循環系制御学専攻

環境化学・環境分析化学研究室

D3 万代 小百合 さん

研究を始めたきっかけ / 研究内容 /
博士課程進学を決め手 /
先生の指導方針や研究室の特色 /
研究環境 / 就職 /
研究のやりがい / 今後の展望 /



4-2-2. 教員へのインタビュー

－ Professional 先生の流儀 －

第1回(平成24年12月14日取材・平成24年1月15日HP掲載)

理学研究科 数理分子生命理学専攻

数理計算理学講座

西森 拓 教授



- － 現在の研究内容
- － 心に残る恩師の言葉
- － 企業ではなく大学で研究を選んだきっかけ
- － 指導方針「前から引っ張るのではなく後ろから押す」
- － 若手研究人材養成センターと共に養成した学生の例
- － 研究を継続する上で大切なこと
- － 博士課程へ進学を考える学生へのメッセージ

第2回(平成25年1月8日取材・平成25年1月24日HP掲載)

生物圏科学研究科 環境循環制御学専攻

環境評価論講座

長沼 毅 准教授



- － 現在の研究内容
- － 通称「仕事ゼミ」
- － 学生の指導方針「世界標準で考える」「結果の平等より機会の平等」
- － 大切にしている2つ言葉
 - 「No pain, no gain」「どっちなか迷ったら苦しい方をやれ」
- － 研究所から始まったキャリア
- － 研究者としての気持ちの持ちよう
- － 博士課程へ進学を考える学生へのメッセージ「困難なくして成長なし」

第3回(平成25年1月23日取材・平成25年2月20日HP掲載)

国際協力研究科 開発科学専攻

開発技術講座

藤原 章正 教授



- － 現在の研究内容
- － 学生の指導方針
- － 研究継続における上で大切なこと
- － 企業ではなく大学で研究を続けようと思ったきっかけ
- － D 進学を考える学生へのメッセージ「適度な楽観性を持って国境を越えろ」

第4回(平成25年2月15日取材・平成25年3月18日HP掲載)

生物圏科学研究科 生物資源科学専攻

食料資源経済講座

矢野 泉 准教授

- － 現在の研究内容, 変遷
- － 学生の指導方針について
- － 研究を続ける上で大切にしていること
- － 進路という岐路になったとき, 他大学への進学で学んだこと
- － 大学院での研究を支えた経済的支援制度
- － 女性の研究者として
- － Dの進学を考えている学生へ
- － 研究はいつも楽しい



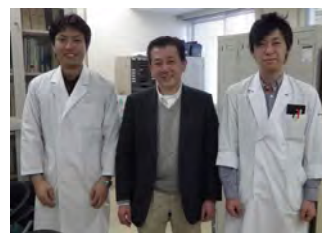
第5回(平成25年3月15日取材・平成25年4月5日HP掲載)

医歯薬保健学研究科 統合健康科学部門

口腔健康科学講座

二川 浩樹 教授

- － 現在の研究内容
- － 人とのつながり
- － 修士で就活
- － 研究は自由奔放に
- － 1期生が一番強い
- － 継続は力なり
- － 臨床も研究も
- － 本来博士は尊敬される存在である

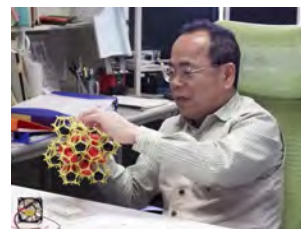


第6回(平成25年5月13日取材・平成25年6月6日HP掲載)

先端物質科学研究科 量子物質科学専攻

高畠 敏郎 教授

- － 現在の研究内容
- － 研究姿勢
- － 若い頃の気概
- － 出会った言葉
- － 研究の視点
- － 指導方針
- － D人材とは
- － D進学を目指す学生へ



第7回(平成25年6月3日取材・平成25年7月4日HP掲載)

工学研究科 物質化学工学部門

化学工学講座

都留 稔了 教授

- － 現在の研究内容
- － CREST採択
- － 学生の指導方針
- － 研究室の様子
- － 研究継続における上で大切なこと
- － 企業でなく、大学で研究を続けようと思ったきっかけ
- － Dに進学する学生へのメッセージ



第8回(平成25年6月17日取材・平成25年7月24日HP掲載)

医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門

細胞分子生物学区研究室

田原 栄俊 教授

- － 現在の研究内容
- － 会社設立
- － 研究継続において大切なこと
- － 指導方針・研究室運営について
- － D進学を目指す学生へ



第9回(平成25年7月8日取材・平成25年8月5日HP掲載)

理学研究科 地球惑星システム学専攻

高橋 嘉夫 教授

- － 現在の研究内容
- － 研究継続において大切なこと
- － 大学で研究を続けようと思ったきっかけ
- － 学生の指導方針について
- － D進学を目指す学生へ



第10回(平成25年8月27日取材・平成25年10月11日HP掲載)

工学研究院 建築計画学講座

建築史・意匠学研究室

杉本 俊多 教授

- － 現在の研究内容
- － 学生の指導方針
- － 研究継続における上で大切なこと
- － 大学で研究を続けようと思ったきっかけ
- － 博士課程進学を考える学生へのメッセージ



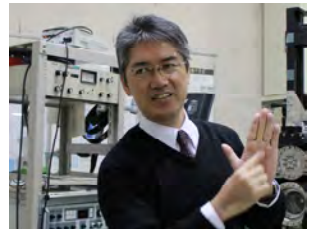
第11回(平成25年11月20日取材・平成26年1月27日HP掲載)

理学研究科 物理科学専攻 物性科学講座

光物性研究室

木村 昭夫 准教授

- － 現在の研究内容
- － 学生の指導方針
- － 研究継続における上で大切なこと
- － 大学で研究を続けようと思ったきっかけ
- － 博士課程進学を考える学生へのメッセージ



第12回(平成26年2月17日取材)

生物圏科学研究科 生物機能開発学専攻 食資源科学講座

食品衛生学研究室

島本 整 教授

- － 現在の研究内容
- － 学生の指導方針
- － 研究継続における上で大切なこと
- － 大学で研究を続けようと思ったきっかけ
- － 博士課程進学を考える学生へのメッセージ



4-2-3. 海外の大学, 研究機関を経験した博士人材, 教員へのインタビュー

－ 研究留学 Challenge 海外で研究をしたい －

第1回(平成25年11月27日取材・平成26年1月10日HP掲載)

理学研究科 化学専攻

山本 陽介 教授

- － 留学を奨める理由
- － 英語の指導方針
- － 留学の時期・留学先の選び
- － 留学を経て, 学生にどのような成長が見られたか
- － 現在の研究内容
- － 山本先生のアメリカでの研究留学経験
- － 研究留学を目指す学生へのメッセージ



第2回(平成25年12月11日取材・平成26年1月10日HP掲載)

理学研究科 物理科学専攻

D3 黒田 健太 さん

- － 現在の研究内容
- － 留学を決意した理由
- － 留学先での研究内容
- － 留学時の語学力
- － 語学力が伸びたと思う経験
- － 海外に出て気づいたこと
- － 研究留学を目指す学生へのメッセージ



第3回(平成26年1月8日取材・平成26年2月25日HP掲載)

工学研究科 建築学専攻

D1 松尾 薫 さん

- － 現在の研究内容
- － 研究留学に行くまでの経緯
- － 留学先での研究内容
- － 留学時の語学力
- － 研究留学を経ての収穫
- － 研究留学を目指す学生へのメッセージ



第4回(平成26年1月20日取材)

理学研究科 化学専攻

D3 赤瀬 大

- － 現在の研究内容
- － 留学を決意した理由
- － 留学先での研究内容
- － 留学時の語学力
- － 留学のメリット
- － 研究留学を目指す学生へのメッセージ



4-3. 学生むけ小冊子 innovation

平成 23 年度より、学生むけ小冊子「innovation」を発行している。

理系の博士課程後期の学生やポストクへのインタビュー記事，博士課程後期への進学の際に必要な情報等を掲載している。

innovation vol.1（平成 24 年 3 月発行）

- ・理系の若手研究者へのインタビュー記事 3 件
- ・博士課程後期学生へのサポート

広島大学の留学プログラム

若手研究人材養成センターの博士課程後期学生へのサポート内容

広島大学の学生サポート

- ・広大生の進路・就職に関するアンケートの結果



innovation vol.2（平成 25 年 3 月発行）

- ・理系の若手研究者へのインタビュー記事 4 件
- ・博士課程後期進学への Q&A

進学・研究内容

若手研究人材養成センターの博士課程後期学生へのサポート内容

広島大学の学生サポート



innovation vol.3（平成 26 年 3 月発行）

- ・理系の若手研究者へのインタビュー記事 6 件
- ・博士課程後期進学への Q&A

進学・研究内容

若手研究人材養成センターの博士課程後期学生へのサポート内容

広島大学の学生サポート



4－4．博士課程後期学生対象 3年手帳

平成 24 年度より，博士課程後期の学生対象に，3 年手帳を作成している。

博士課程後期の心得，進路についてのプランニング，大学で行われている学生支援等について掲載し，博士課程後期の 3 年間を有意義に過ごすために必要な内容を盛り込んだ手帳になっている。

Doctoral Course Schedule Book 2013.3 ⇒ 2016.4

（平成 25 年 3 月発行）

- ・ 2013 年 3 月から 2016 年 4 月までのカレンダー・スケジュール帳
- ・ 博士課程後期の心得
- ・ 博士課程後期修了後の進路
- ・ 博士課程後期の学生支援
- ・ 税金・確定申告・健康保険・年金



Doctoral Course Schedule Book 2014.3 ⇒ 2017.10

（平成 26 年 3 月発行）

- ・ 2014 年 3 月から 2017 年 10 月までのカレンダー・スケジュール帳
- ・ 博士課程後期の心得
- ・ 博士課程後期修了後の進路
- ・ 博士課程後期の学生支援
- ・ 税金・確定申告・健康保険・年金



4-5. アチーブメントカードシステム

アチーブメントカードシステムは、イノベーション人材養成システムの中をなすものである。すなわち、被養成者の取組等を一元的に管理し、それにより、指導・助言をに、かつ、効果的に実施するために不可欠なツールである。

選抜された被養成者のそれぞれに、アチーブメントカードシステムの中にアチーブメントカード(一種の「マイページ」)を作成する。被養成者の修内容や成績、参加したセミナー、記録等の情報は、随時、アチーブメントカードシステムに登録される。これらにより、被養成者が、められる能力(幅広い知見や、コミュニケーション能力、実践力、独創的な課題設定・解能力、創造力、発力)を、どの程度、身に付けたのかがわかるようなシステムとなっている。

また、長期取組(インターンシップ)の間、被養成者は、アチーブメントカードシステムの「インタラクティブルーム」にインターンシップの様子や、した問題等を毎日書き込むことにより、本学の教員・若手研究人材養成センター教職員にインターンの様子を報告する。れた場所での長期インターンをにマネジメントする。インターンシップ先企業のからアクセスできるようセキュリティも実させている。

さらに、被養成者は各自のアチーブメントカードから必要な書をダウンロードすることができる。物品の調、務日時やインターンシップ先企業への間日時などのスケジュールリング、インターンシップに係る書作成・提出などのプラットフォームとしても大いに活用している。

アチーブメントカードシステムを利用することにより、被養成者とメンターの意の通が容かになり、日のみや課題に対する助言等、随時メンタリングとキャリアカウンセリングを受けることができる。また、メンター業務に携わる教員に、の「専門領域における研究のできる人材養成」からし、に必要とされる人材とはかを念に置いた人材育成にむけた意識改革をうながすことにも役立っている。



4-6. 博士キャリア相談室

本事業で設置した「博士人材キャリア相談室」の利用者(大学院生及び若手研究者)は、開設から約4年の間に、のべ1800名以上となっている。内訳は次のとおりである。平成21年度(1月22日～3月31日):DC=13名, PD=4名, 計17名 平成22年度: MS=146名, DC=175名, PD=33名, 計354名 平成23年度: MS=337名, DC=206名, PD=139名, 計682名 平成24年度: MS=201名, DC=143名, PD=98名, 計442名 平成25年度(1月～3月まで): MS=170名, DC=219名, PD=49名, 計438名。

相談室は、若手研究人材養成センターの特任教員が初任者としてはすべておこなった。内容や養成の場によっては、三任者(産学・地域連携センター)、研究科連関ワーキンググループの教員が主となっている。内容としては、「長期取組と研究活動の立上げ」、「長期派遣先の探し方」、「長期取組がどの程度 職につながるのか」、「長期派遣先でのコミュニケーション(食や生活)、生活(特に休日など 勤務日以外の)」等の長期派遣に係るものと、「博士課程進学とその後の 職に関する不安」に関するものが多い。

長期取組と研究活動の立上げに関しては、大学院生の指導教員も交えた 機会を設け、大学院生(の 不安)と指導教員の意識の 差を図っている。 者の多くは職種については多くは研究開発職という強いイメージを 持っているが、自身の専門分野がどのような業種で活かされるかについては 認識不足であることが多い。そこで 書籍や研究 書の書き方指導から入り、 員が 者の専門分野を すること、それにあった提案をする、というレベルからすすめている。そのことは、 者が自身の強みを 認識することにつながっており、自ら派遣先を 決め動機付けとなっている。

日時: 随時(し、事前の 予約が必要)

場所: 若手研究人材養成センター(教育学部 402 室)

予約・問合せ先: 広島大学若手研究人材養成センター

E-MAIL wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp

TEL 082-424-4563

URL <http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/>

者は、 氏名、所属、職名または学年、連 関先、 単なる 内容、 日時(できるだけ 数)を明記して、メールで連 関する。

5. 若手研究人材の公募・選抜

5-1. 定期公募による選考

原則として毎年2回、公募による選考を行っている。選考には博士課程後期の大学院生を5名程度、学位取得後5年以内の若手研究者を2名程度採用することとしている。DC（博士課程後期の大学院生）に関しては本学の理系の大学院に在籍者のみとしているが、PD（学位取得後5年以内の者）に関しては、全国に広く公募している。

5-1-1. 公募の広報

公募に際しての広報では、博士課程後期の大学院生と学内の研究員職にある者に関しては、学内の各研究科の学生支援室、専任事務室、センターの研究科連名の教員と協力し、在籍者全員に募集名を入れて「募集要項」と「事業説明」、「センターのパフレット」をその都度送付している。また募集の度に学内では、全体説明会(1)と研究科別説明会(6)を行っている。研究科別説明会にあたっては、事前に研究科毎の教員会で事業概要と公募についての説明を繰り返し行っている。

学外に関しては、中国四国地域の大学等で研究員職があるとされる機関の全てに「募集要項」を付している(中国四国地方の国立大学(広島大学を含む)8部(), 広島立大学3部, 広島市立大学1部, 計12部())。さらに、(独)科学技術振興機構が運営している研究者人材データベース(C)や日本化学会や高分子学会などの会のホームページでも必ず公募情報を掲載している。また、

期間に限らず学会の会報に事業説明の広告を掲載し、事業と定期的な公募に関する知識を高める取組を進めている。

5-1-2. 選考方法

養成対象者としての採用を希望する者は、公募にあたり事前に、センターが開設している「博士人材キャリア室」を利用することとしており、そこで現在の状況や職への意図の明確さなどを確認している。選考は書類選考(一次選考)と面接による選考(二次選考)の2段階により行っている。

選考委員は、本事業を推進するにあたり設置した被養成者選抜ワーキングの教員を中心に、専任書を元にその専門分野を理解できる教員も加めている。

提出書類には、専任書に加えて、「実践プログラム修了に対する感想」、「現在までの研究業績」、「研究業績」、及び、長期取組や博士課程修了後のキャリアパスを記載することとしている。一次選考は、提出書類に基づく書類選考である。また応募者の(元)指導(受入)教員からは、推薦・評価書において、応募者が採用された場合、本事業に関するメンターとして指導・協力することを確認している。

二次選考においては、「これまでの研究内容及び企業での長期取組で実施する研究等の内容(日本語での発表)」と英語による面接を行っている。

選考の基準は次のとおりである。1次審査(書類による選考)では、実践プログラム修了に対する意欲、専任書の明確な記載、長期取組に関する計画の具体性と現在までの研究業績(研究内容、問題点、研究方法、特長及び独創的な点、研究結果及び得られた成果)、及び、研究業績について選考委員が100点満点で採点し、選考委員全員の平均が60点以上の者を合格としている。2次審査(

による選)では、本計画に取り組む意欲、企業に対する 職計画の明確さ、専門外の人に明確に内容を発表できるか、的確な質 、英語コミュニケーション能力の つを評価基準とし、1次審査と同様に選 委員が100点 点で採点し、選 委員全員の平 が60点以上の者を採用している。

1次審査(書 による選)の選 基準	2次審査(による選)の選 基準
実践プログラム 修に対する (意欲, 書 の明確な記載, 長期取組に関する計画の具体性) 現在までの研究 (, 問題点, 研究方法, 特 及び独創的な点, 研究 及び得られた 果) 研究業績	本計画に取り組む意欲 企業に対する 職計画の明確さ 専門外の人に明確に内容を発表できるか 的確な質 英語コミュニケーション能力
100点 点で、選 委員の平 が60点以上の者を合 とする	100点 点で、選 委員の平 が60点以上の者を合 とする

採用は、研究人材養成委員会で審 し、定している。研究人材養成委員会には、本事業の連携企業からも委員として参画している。

不採用となった者についても、そのフ ローアップとして、本事業で整 している「実践プログラム」の業科目やセミナー等への参加や「博士人材キャリア 室」の利用を し、自身のキャリアパスについてる機会を提 している。

5-1-3. 開講式およびスタートアップセミナー

学長の のもとに、開講式を開 している。選抜された者は開講式にメンター教員とともに出し、その後のスタートアップセミナーにも参加することとしている。この開講式とスタートアップセミナーに養成対象者とメンター教員が一 に参加することが、プログラムの理解と長期取組への な展開につながっている。

5-1-4. 養成対象者の評価方法

被養成者の修得単位や取組実績は、アチーブメントカードシステムにより一元管理し、それに基づき、メンターが指導・助言している。本システムの修了は、アチーブメントカードシステムにおいて必要な項目がすべて合 となっていることによって 定している。合 定を受けた被養成者は、修了式において、「イノベーション人材養成システム修了 」を、学長あるいは若手研究人材養成センター長から受ける。

5-2. 特別選抜

上記の定期選抜とは別に、インターンシップ先企業等の 点も加 た特別選抜を設けている。この選抜は、 するインターンシップ先企業等の方の評価を選 程に加 る。なお、インターンシップ先は、若手研究人材養成センターの連携企業に限られる。対象は本学の博士課程後期に在 する大学院生のみとし、定期的に連携企業にインターンシップ 人について している。これまでに一名が特別選抜

制度により長期取組に参加している。定期選抜と べ、より企業の める人物 にあった人材を すことができ、長期取組参加者についても企業から高い評価を得ている。より なマッチングと言 る。

5-3. 選抜された養成対象者

5-3-1. イノベーション人材養成システム第Ⅰ期

平成 21 年 10 月 1 日、 期(平成 21 年度 10 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。 期生は博士課程後期学生 5 名、若手研究員 2 名である。

5-3-2. イノベーション人材養成システム第Ⅱ期

平成 22 年 4 月 1 日、 期(平成 22 年度 4 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。 期生は博士課程後期学生 2 名、若手研究員 2 名である。

5-3-3. イノベーション人材養成システム第Ⅲ期

平成 22 年 10 月 1 日、 期(平成 22 年度 10 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。 期生は博士課程後期学生 3 名、若手研究員 1 名である。

5-3-4. イノベーション人材養成システム第Ⅳ期

平成 23 年 4 月 1 日、 期(平成 23 年度 4 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。また、平成 23 年 6 月 1 日、 期(平成 23 年度 6 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。 期生は、あわせて、博士課程後期学生 5 名、若手研究員 2 名である。

5-3-5. イノベーション人材養成システム第Ⅴ期

平成 23 年 10 月 3 日、 期(平成 23 年度 10 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。また、平成 23 年 12 月 2 日、 期(平成 23 年度 12 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。 期生は、あわせて、博士課程後期学生 6 名、若手研究員 1 名である。

5-3-6. イノベーション人材養成システム第Ⅵ期

平成 24 年 4 月 2 日、 期(平成 24 年度 4 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。また、平成 24 年 5 月 15 日、 期(平成 24 年度 5 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。 期生は、あわせて、博士課程後期学生 4 名、若手研究員 2 名である。

5-3-7. イノベーション人材養成システム第Ⅶ期

平成 24 年 10 月 1 日、 期(平成 24 年度 10 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。また、平成 24 年 12 月 3 日、 期(平成 24 年度 12 月期)の開講式、および、スタートアップセミナーを開した。 期生は、あわせて、博士課程後期学生 6 名、若手研究員 2 名である。

5-3-8. イノベーション人材養成システム第Ⅷ期

平成 25 年 4 月 1 日, Ⅷ期(平成 25 年度 4 月期)の開講式, および, スタートアップセミナーを開いた。また, 平成 25 年 6 月 3 日, Ⅷ期(平成 25 年度 6 月期)の開講式, および, スタートアップセミナーを開いた。また, 平成 25 年 8 月 2 日, Ⅷ期(平成 25 年度 8 月期)の開講式, および, スタートアップセミナーを開いた。Ⅷ期生は, あわせて, 博士課程後期学生 6 名, 若手研究員 4 名である。

5-3-9. イノベーション人材養成システム第Ⅸ期

平成 25 年 12 月 2 日, Ⅸ期(平成 25 年度 12 月期)の開講式, および, スタートアップセミナーを開いた。Ⅸ期生は, 博士課程後期学生 4 名である。

6. 企業派遣（長期派遣）の実績

1 長期企業派遣の

「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」の「実践プログラム」の一環として, 企業研究機関等で同研究に事する。独自の専門をそなえ, 幅広い知識と実践力, さらに, 新分野に挑戦する力を身につけることを目的とする。

2 実施要領

(1) 対象者

若手研究人材養成センターが「イノベーション人材養成システム」の養成対象者として選抜した若手研究者であって, 以下の要件を満たす者:

所定の実践プログラムを受講していること

約書の内容を理解し, 署名すること

若手研究人材養成センター長が派遣することを認めること

(2) 派遣先企業等

「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」の内容を理解し, 「連携企業」として参加することをした企業等を対象とする。

(3) 派遣先企業との覚書の

本学は, 派遣先企業と『「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」の企業派遣プログラムの実施に関する覚書』を締結し, 養成対象者が派遣先連携企業において実施する同研究に必要な事項を定める。

(4) 実施期間

一つの派遣先企業について, 3 ヶ月以上とすること。

(5) 派遣場所

受け入れ企業の研究所や事業所とする。

(6) 実施期間中の 用

分	用	等	社会保 等
博士課程後期の大学院生	職員(A) (企業への派遣期間のみ 用)	本学の 程に基づき月10 程度を支 する。 , 通 手 等の手 は支 しない。	保 に加入する。 健 保 , 生年 保 , 用保 なし。
博士学位取得後 5 年以内の研究者	研究員 (養成期間の 1 年間 用) し上記期間内であっても, 3 ヶ月以上の企業派遣プログラム等の養成プログラムが終了した後, 職が確定した場合は, 養成期間を 期終了する	本学の 程に基づき月 を支 する。 , 通 手 等の手 は支 しない。	部科学 組合 , 用保 , 保 に加入する。

(7) 派遣先企業への交通費等

本学の 程に基づき, 支 対象となる場合は, 交通費または 費を支 する。

(8) 実施期間中の事 ・

保 に加入する。博士課程後期の学生の場合は, 学生教育研究 保 , 学研 付責任保 に加入すること。

期からのすべての被養成者について, 長期派遣先企業名, 業種, インターンシップの実施種別, 養成期間, 実践プログラムによる 度, 及び, 企業への長期派遣の成果を, 表にまとめる。なお, インターンシップの実施種別のA Dは, 次の内容を示すものである。

- A: 業務体 (派遣先企業の事情にあわせ, 業務を体 する)
: 課題 行 (被養成者本人の げた課題を 行する)
C: プロジェクト (同研究等のプロジェクトを 行する)
D: その他

また, 大学院生の在 については, 平成26年3月上 の である。

6-1. 第Ⅰ期生

期() (博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	男	東洋紡績(株)コーレ ート研究所	繊維	A	H21 10 1 H22 9 30 (H22 1 12 3 19)	修了	在 中
DC 2	男	(株)エネルギー・エコ・マ テリア	ビサ 業	C	H21 10 1 H22 9 30 (H22 7 22 9 9)	修了	修了
DC 3	男	三菱レイヨン(株)中 技 術研究所	繊維	A	H21 10 1 H22 9 30 (H22 1 29 4 30)	修了	修了
DC 4	女	復建調査設計(株)	ビサ 業	A	H21 10 1 H22 9 30 (H22 6 16 9 13)	修了	修了
DC 5	女	機器分析メーカー	機精 器密	C	H21 10 1 H22 4 12 (H22 3 15 3 19)	辞退	修了

名	企業への長期派遣の成果
DC 1	・大学とは異なる企業での環境の体 ・計 機シミュレーションに関する知識
DC 2	・大学と企業の役割の いを実感 ・博士取得後のキャリアプランの 大
DC 3	・高分子に関する知識と解析を行うための測定技術の 得 ・企業で くことのイメージ化
DC 4	・研究者以外がいる場での業務の体 ・業務に必要なソフトウェアの 用方法の 得, 必要とされる専門知識の 得
DC 5	・企業の研究では研究の価 (利益)が重要 されていることを実感し, 自身の研究 を みることができた

期() (若手研究員)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム修了後
PD 1	男	建築設計事務所	サ 業 ビス	A	H21 11 1 H22 7 31 (H22 4 1 6 30)	派遣先に 職

PD 2	女	(株)東洋高圧	機械	C	H21 11 1 H22 10 31 (H21 11 2 12 25)	被養成者の により派遣を打 り
PD 2	女	(株)特殊免疫研究所	医薬品	A	H21 11 1 H22 10 31 (H22 5 10 9 27)	派遣先に 職

名	企業への長期派遣の成果					
PD 1	・調査研究を実施するう で、関連部 との連携の必要性を実感 ・多 解析などの 果報告について企業で められる見せ方・手法の体					
PD 2	(1 目)企業の 品開発に対する , 及び, 企業と大学での研究に対する 方の い等の社会 (2 目)自身の研究分野以外の領域の知識の 得 研究職以外の可能性の実感					

6-2. 第Ⅱ期生

期() (博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	男	(株)ファーマフーズ	食料品	A	H22 4 1 H23 3 31 (H22 11 24 H23 2 25)	修了	修了 派遣先に 職
DC 2	男	学校法人鶴学園 広島工業大学	学校教育	A	H22 4 1 H23 9 30 (H23 7 1 9 30)	修了	修了

(本人の により, 養成期間を中 し, 開した)

名	企業への長期派遣の成果					
DC 1	・社外との案件について、自身で研究成果をまとめ、プレ ン報告を行い、案件の継 と - いう成果を出す びを実感 ・社会人としての 構 や社員としての自覚を実感					
DC 2	・自身が目標としている職種リサーチアドミニストレーターに必要な事務 理能力及び - の 得 ・事務作業の知識 技術の 得 ・組織の重要性を実感					

期() (若手研究員)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム修了後
PD 1	男	()			H22 4 1 H22 7 23	(進)
PD 2	女	国際特 事務所	サー ビス 業	A	H22 4 1 H22 8 31 (H22 5 10 8 9)	派遣先に 職

名	企業への長期派遣の成果
PD 1	(中で, 進 のため)
PD 2	・特 を通じた特 関連 書の 書構造の理解 ・自身の 質とキャリアプランの 性の確

6-3. 第Ⅲ期生

期() (博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	女	(株)日立中国ソリューションズ	通信報 業	A	H22 10 1 H23 9 30 (H22 12 1 H23 2 28)	修了	修了 派遣先 以外に 職
DC 2	男	ナガセケムテックス(株)	化学	A	H22 10 1 H23 9 30 (H23 6 13 9 9)	修了	在 中
DC 3	女	(株)あじかん	食料品	A	H22 10 1 H23 9 30 (H23 1 25 4 28)	修了	修了 派遣先 に 職

名	企業への長期派遣の成果
DC 1	・システムエンジニアとして, 一連の開発手 を むソフトウェア開発の仕事を体 ・実際の生産現場で要 分析の 程を確 ・新しい信頼性評価のアイデア
DC 2	・ 機合成や物性 等の研究開発や 産化 作部門, 及び, 品質管理や生産設 等の現場を ・大 機器・ 置に れ, 企業組織の 方や大学の実 室との いを実感 ・企業の現場でも自身が大学で行っている計 機シミュレーションへの期待 要 を知った
DC 3	・学位取得後のキャリア選択の幅の 大 ・自身の大学での研究活動が, 企業でどのように活かされるか, 企業で活 するためにはどのような 点が必要か, を体感

期() (若手研究員)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム修了後
PD 1	女	テラルテクノサービス (株)	サービス業	C	H22 10 1 H23 9 30 (H22 11 15 H23 6 8)	派遣先以外に 職

名	企業への長期派遣の成果
PD 1	・様 なサイズの 上にあわせた施工に関する知識・技術を 得した

6-4. 第Ⅳ期生

期() (博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	男	メドエルジャパン(株)	精密機器		H23 4 1 H24 3 31 (H23 5 9 9, 9)	修了	修了
DC 2	男	東洋紡績(株)	繊維製品		H23 4 1 H24 3 31 (H23 12 28 H24 3 31)	修了	在 中
DC 3	男	(株)コア	情報・通信業		H23 6 1 H24 5 31 (H23 12 16 H24 3 31)	修了	修了 派遣先 以外に 職
DC 4	男				H23 6 1 H24 5 31	修了	修了
DC 5	男				H23 6 1 H24 3, 23	(辞退)	派遣先 以外に 職

名	企業への長期派遣の成果
DC 1	・ の方向定位 に用いるソフトウェアの開発 ・プログラムの新たな利 性について知った ・英語でのコミュニケーションによる ようとする積極的な気 が 生 た

DC 2	・企業における生活や 度, 方(研究, 人間関係, 社会 識, 等)を取得 ・ られた課題に対して多 的な検討ができるようになった
DC 3	・ファクトリーオートメーションの基 となるサーボの 動制 に関する基 を学んだ ・チームでソフトウェアを開発する際のコミュニケーションのはかり方を学んだ
DC 4	
DC 5	平成 24 年 4 月 職 (大学院修了と同時に本システムを)

期() (若手研究員)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム修了後
PD 1	男	(株)日本製鋼所	機械	A	H23 4 1 H24 3 31 (H23 9 12 12 9)	派遣先に 職(H24 年 4 月から)
PD 2	男	(株)あじかん	食料品	A	H23 6 1 H24 4 30 (H23 9 26 12 22)	派遣先以外へ 職

名	企業への長期派遣の成果
PD 1	・プラズマ C D 置の立上げ・立下げ・ 電手 をマニュアル化することで 置の 用方法を 得した ・よい人間関係の構築が, 果として仕事の効 や生産性の向上に がることを実感
PD 2	・食品メーカーにおける健 食品の基 研究に携わり, 品 作から生産 程まで物作りの現場を した ・ 材に関するアレルギーの調査を行い, 対 を提案したことにより健 食品に 意の表示をすることが 定された ・外部 機関に出向し, 材の機能性の解析を行い, 品開発に 用な知見を得た

6-5. 第Ⅴ期生

期() (博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	男	中国セントラルコンサル タント(株)	サ ー ビ ス 業		H23 10, 1 H24 9 30 (H23 11 1 H24 4 30)	修了	在 中

DC 2	男				H23 10, 1 H24 9 30	修了	修了
DC 3	女	医療法人ハート	その他		H23 12 1 H24 11 30 (H24 2 1 3 31 H24 9 1 9 30)	修了	在 中
DC 4	女	(企業名公表不可)	機械		H23 12 1 H24 11 30 (H24 4 23 7 31)	修了	修了
DC 5	女				H23 12 1 H24 3 23	(辞退)	修了
DC 6	男	戸田工業(株)	化学		H23 12 15 H24 12 14 (H24 1 5 3 31)	修了	修了 派遣先 へ 職

名	企業への長期派遣の成果
DC 1	- 市計画マスタープランの構造それに係る業務について学んだ - 市計画における行 担 者との意 通の重要性について学んだ
DC 2	
DC 3	院内での医 や 培養士, 者等との異なる主体とのコミュニケーションをもとにコミュニケーション能力に加 て, する力, 事前準 (取り力), 対 力が大きく向上した
DC 4	理の現場で作業とマネジメント, 環境に関する意識がどの様に調 され, どの様に実が図られているのかを学んだ
DC 5	平成 24 年 4 月 職 (大学院修了と同時に本システムを)
DC 6	- 特性の基 を身に付けた - 特 調査スキルの基 をみにつけた

期() (若手研究員)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム修了後
PD 1	男	(株)ワコムアイティ	情報・通信業		H23 10 11 H24 9 5 (H23 12 1 H24 3 31)	派遣先以外への 職
		(株)サタケ	機械		H23 10 11 H24 9 5 (H24 6 1 8 31)	

名	企業への長期派遣の成果
PD 1	T 技術の 業・環境分野での 用に関する新しいアイデアを得た。本人の専門知識とこの T 関連知識とで、会社の新 事業計画案(業分野)を作成した(ワコムアイティ)
	・自身が研究していた 産分野での 計分析技能を 業分野に 用した。 ・マーケット分析が営業や にどの様に活用されているのかを学んだ(サタケ)

6-6. 第Ⅵ期生

期() (博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	男	日本光電工業(株)	電子機器		H24 4, 1 H25 3 31 (H24 8 20 11 30)	修了	在 中
DC 2	男				H24 4, 1 H25 3 31	修了	修了派遣先以外へ職
DC 3	男				H24 4, 1 H25 3 31	修了	修了派遣先以外へ職
DC 4	男	サイボウズ	通信業・情報		H24 5, 15 H25 5 14 (H24 9 10 12 14)	修了	在 中

名	企業への長期派遣の成果
DC 1	・医療機器のシステム設計の改 に取り組み、所期の成果を得た。 ・企業のよい職場環境に れ、報連 による取り組みをしてきた。 ・企業からも 気に け んでフレッシュさを提 してくれたとの評価をいただいた。
DC 2	(平成 25 年 4 月の 職が 定したため、長期派遣への参加を)
DC 3	(平成 25 年 4 月の 職が 定したため、長期派遣への参加を)
DC 4	・グループウェア開発の基 と 数のエンジニアでの 同開発する際のコミュニケーションの取り方、進 管理について学んだ ・大学で研究している アル リズムをグループウェアに組み んだ

期() (若手研究員)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム修了後
PD 1	男	(株)テック	電子機器		H24 4, 1 H25 3 31 (H24 12 17 H25 3 22)	派遣先に 職
PD 2	男	亀田製菓(株)	食品		H24 4, 1 H25 3 31 (H24 11 19 H25 2 28)	派遣先に 職

名	企業への長期派遣の成果
PD 1	・ 事業に関しては、作業の 了まで、もしくは一部を担 し、通 業務を した。 ・新 事業に関しては特 調査のまとめを した。 ・受託生産においては、時間 を かく計 , 管理しなけれ ならないことを学んだ。
PD 2	企業の研究では、基 研究により成果を出すよりも、お 様のベネフィットを ーに , 研究を行う必要がある。特に 品開発の現場ではどのようなベネフィットがあるかを し合い、 度も した。この 方は大学での研究ではなく、 意義な点であった。

6－7. 第Ⅶ期生

期() (博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	女	ラボテック(株)	ス サービス	A・	H24 10, 1 H25 9, 30 (H25 2 12 5 24)	修了	在 中
DC 2	男	公益財団法人くれ産業振興センター	その他	D	H24 12, 1 H26 2 28 (H25 11 11 H26 2, 28)	養成中	在 中
DC 3	女				H24 12, 1 H25 11 30	修了	在 中

DC 4	男	(株)東京カンテイ	ス 業	A	H24 12, 1 H25 11 30 (H25 8 19 H25 11, 22)	修了	在 中
DC 5	男	マッチング中			H24 12, 1 H26 2 28	養成中	在 中
DC 6	男	(株)サタケ	機 械	・C	H24 12, 1 H26 2 28 (H25 12 2 H26 2, 28)	養成中	在 中

名	企業への長期派遣の成果						
DC 1	・これまで大学で っていない 体の分析方法について 得でき、知識や技術の幅が広がった。 ・実 果の報告や指導者との の中から研究の意義について改めて るきっかけを得ることができ、 意義であった。						
DC 2	・コーディネータの方 に多種多様な企業に 問させて頂き、その企業の「生の 」を くことができ、他のインターンでは できない に 重な機会を多く得ることができた。 ・産学官連携に関するセミナーや講 会にも多く参加することができ、知見が広まった。						
DC 3							
DC 4	・データの 集から、分析し、その 果を用いて営業活動を行うといった業務の一連のれを体 することができた。 ・業務のそれぞれでどのようにニーズが意識されているのかを学 することができた。 ・日 から専門外のことについても積極的に学び、基 知識を 得する の必要性を実感した。						
DC 5	マッチング中						
DC 6	・コーディネータの方 に多種多様な企業に 問させて頂き、その企業の「生の 」を くことができ、他のインターンでは できない に 重な機会を多く得ることができた。 ・産学官連携に関するセミナーや講 会にも多く参加することができ、知見が広まった。						

期() (若手研究員)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム修了後
PD 1	女	(株)アビー	機 械		H24 10, 1 H25 9 30 (H24 11 12 H25 2 22)	派遣先に 職 定 (内定)
		(株)ニッシン	製 造 業	A	H24 10, 1 H25 9 30 (H25 7 22 H25 9 25)	

PD 2	女	(株)生体分子計測 研究所	製その他 造業	A	H24 10, 1 H25 9 30 (H25 7 3 H25 9 27)	派遣先に 職
------	---	------------------	------------	---	--	--------

名	企業への長期派遣の成果					
PD 1	・会社のアールのため、フェイスブックやホームページに、どのようにするとお様にイメージをるかについて、知見を得た。 ・CAS機能のとの生の関係や、CASがどのように場をかけるか、度設定等について学ことができた。(アビー)					
	・品開発プロセスについて学んだ。 ・工場研修によりされている品や開発されている品がすべてハンドメイドであることと、その製造工程について学んだ。 ・CAD CAM機械の利用・デジタルデータの作成など先端技術にれることができた。(ニッシン)					
PD 2	・置で用いる薬系の条件検討を行い、感度の向上にった。 ・課題出から改までのステップを体できたことが意義であった。 ・食品表示に関わる法と検査を学んだ。					

6－8．第Ⅷ期生

期()(博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	男	旭化成ケミカルズ(株)	業 化学工		H25 4, 1 H26 3, 31 (H25 11 18 H26 2 28)	養成中	在 中
DC 2	男	(株)日立製作所	電気機器		H25 6, 1 H26 5, 31 (H25 8 22 H25 11 29)	養成中	在 中
DC 3	女	ダイキョーニシカワ(株)	業 化学工		H25 6, 1 H26 5, 31 (H25 11 18 H26 3 7)	養成中	在 中
DC 4	男	(株)日本製鋼所	機械	D	H25 8, 1 H26 9, 30 (H25 1 6 H26 3 31)	養成中	在 中
DC 5	男	マッチング中			H25 8, 1 H26 9, 30	養成中	在 中

DC 6	男	マッチング中			H25 8, 1 H26 9, 30	養成中	在 中
------	---	--------	--	--	--------------------	-----	-----

名	企業への長期派遣の成果
DC 1	・実用性やコスト意識など、企業での大 々な取組みを体 した。 ・開発目標を 成するため、グループ内での役割分担、 果のフィードバックをどの様に行うかを学んだ。 ・仕事中だけでなく、職場の外でも、「 全」の意識を に大 にされていることを知った。
DC 2	・新しいプログラミング言語の学 。社員の方が、 に 品開発の 点を意識している点を実感した。 ・社内上 部や関連会社にプレ ンする機会をいただいた。
DC 3	・物理 出発 成 向 げ強度など知識が広がった。学内の研究だけでは得ることのできなかった開発 は 後の研究活動に役立つと う。 ・企業の研究にはより い製品・サービスを の中に提 するために行われている。その 果 それが会社の利益につながることを理解しました。
DC 4	派遣中
DC 5	マッチング中
DC 6	マッチング中

期() (若手研究員)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム修了後
PD 1	男	HGST ジャパン(株)	器電子機		H25 4, 1 H25 11, 30 (H25 9 1 H25 11 15)	修了 派遣先に 職
PD 2	女	ダイヤ工業(株)	製そ造業他		H25 4, 1 H26 3, 31 (H25 9 17 H25 12 20)	養成中
PD 3	男	マッチング中			H25 4, 1 H26 2, 28	企業より内定を得たため H26 2 28 に 職
PD 4	男	(株)ミウラ	通情報業	A	H25 6, 1 H26 5, 31 (H26 3 3 H26 5 23)	養成中

名	企業への長期派遣の成果
PD 1	大学でこれまで ったことのない電子 等の機器を用い, 基 表 の 等について分析を行った。その原理から 置の構造まで一 して学び, 特に 現性を得るスキルについては, 受入担 者から高い評価をいただいた。
PD 2	・コンセプトの 定, ウェアの設計及び 作を行い 品開発の 程を体 した。 ・大学での研究の (情報整理のための 検 , 実 場の 行 誤)が役立つことを実感した。
PD 3	
PD 4	派遣中

6-9. 第Ⅸ期生

期() (博士課程後期学生)

名	性別	長期派遣先	業種	実施種別	本システム養成期間 (企業派遣期間)	本システム	大学院
DC 1	男	マッチング中			H25 12, 1 H26 11, 30	養成中	在 中
DC 2	女	マッチング中			H25 12, 1 H26 11, 30	養成中	在 中
DC 3	男	マッチング中			H25 12, 1 H26 11, 30	養成中	在 中
DC 4	男	マッチング中			H25 12, 1 H26 11, 30	養成中	在 中

名	企業への長期派遣の成果
DC 1	マッチング中
DC 2	マッチング中
DC 3	マッチング中
DC 4	マッチング中

7. 学内外との連携状況

7-1. 学会支部等との連携

学会の支部組織を通じて、大学教員と企業の研究者・技術者、また、中高の教員はくつながっている。特に、中国四国地域は学会支部活動が活発であり、広島大学の教員が支部組織運営の中核的役割を担ってきた実績がある。そこで、日本化学会中国四国支部、中国四国化学と工業学会、日本化学会中国四国支部、高分子学会中国四国支部との連携のもとに本事業を進めている。実際に、支部事業会や支部主催のセミナーの際に、これらの学会の会員企業に、本事業の取組内容や連携企業の位置づけを説明した結果、多くの学会会員企業は「連携企業」となっている。また、日本化学会の元会長(化学系企業の元トップ)と、企業における博士人材についての意見交換をした。そこでは、化学系企業においては、新採用者のうちの学位(博士)取得者の割合が2割を占めている企業が多いこと、戦力として中採用する場合も多いこと、学会としての博士人材の職支援に協力するが、別の大学の取組には協力しづらいこと、などの意見があった。それに対して、化学系企業全体として博士人材を受け入れる機運をさらに高めていただきたい、と申し入れた。学会組織は産学が集まる場であり、連携企業の得や本事業の内容をよりよくしていくための意見交換を、活発に進めることができる場である。

7-2. 中国四国地方の国立大学との連携

本事業は中国大学の連携事業の一つとしている。大学学長会や関係実務者会において、本事業の取組を報告している。被養成者選抜には、中国四国地域の他大学からの応募がある。

7-3. 中国地域の経済関連団体等との連携

中国産業、中国連合会や工会所とは、に人材育成やイノベーション創出について情報交換している。また、「ちゅうく産業創造センター」、「しま産業振興機構」、「中国地域ニュービジネス協会」等の様々な組織とも、企業情報の提供、講座等事業での広報及び各広報体の活用等の連携が進んでいる。現在、日本社会全体が自然災害、原発事故、高齢化、産業の高度化、等々、多くの課題を抱えている。中国地域は、とくに、地域の活性化が大きな課題であり、それを解決するためには、優秀な人材の確保がまず重要である、という問題意識をどの組織ももっている。本学のこの取組は、中国地域に優秀な人材を確保し、地域全体の活性化を図る取組として、中国地域の多くの関連団体に期待されている。優秀な博士人材の養成と輩出が産官学の「地方協奏」となり、中国地域が活性化することをめざしている。

7-4. 地方自治体との連携

広島県の依頼により、平成21年度に、広島県内の中小企業におけるスタートアップ等へのニーズ及び広島大学の大学院博士課程後期を修了した者の進路動向や職業・業種選択における意識をアンケート及びヒアリングにて調査した。

企業:120社を選定し、書類または電話にて調査。そのうち110社が対応。

スタートアップ等:平成13年度から平成20年度に博士課程後期を修了した679名にアンケート。そのうち、

広島大学及び 内の公的研究機関において スドク職にある者から72名を 出し、ヒアリング。
本調査の 果、地域の 間企業に長期インターンシップを行う等の実践的取組みが必要であるとの 識
を広島 との間で した。それ以 、本学と広島 とは スドクの 用に関して強い連携関係にある。

7-5. 担当者連絡会議

全国で『科学技術人材育成費補助 』の補助事業「 スドクター・インターンシップ推進事業(イノベーション創出若手研究人材養成)を担当している方 を対象とする担当者連 開 した。 つ目的があり、その一つは、若手研究人材養成の取り組みを、 に若手研究人材のために進めるために、担 者(各機関の担 者 ST 担 者)が(この取組みは、評価を得るためにするものではなく、若手研究人材のために進める、という 通の意識をもって)、 なく問題点を しあうこと。もう一つは、 のない意見交 の 果、解 すべき課題を き りにし、7 月の担 者会 の 題とすべき項目を見出すことである。採択機関の とんどすべてから、約 60 名の担 者が参加し、日 っていることを出し合い、その解 のために活発な を交わすことができた。

若手研究人材養成のための担当者連 会

日程：平成 24 年(2012 年) 1 月 5 日()・6 日()

場所： しまハイビル 21 17 会 室

プログラム:

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 日目(1 月 5 日()) | 13:00 受付 |
| 13:30 13:40 | 開会 |
| 13:40 14:00 | および連 会の進め方の 明 |
| 14:00 14:50 | 1 養成対象者(学生) 教員について |
| | 1 1 学生 |
| | 1 2 スドクの 用 |
| | 1 3 教員 |
| | 1 4 養成の進め方 |
| 15:00 15:50 | 2 カリキュラム関連 グローバル化について |
| | 2 1 カリキュラム |
| | 2 2 グローバル化 |
| | 2 3 者および協力者の |
| | 2 4 理工系学生の 発 |
| 16:00 16:50 | 3 企業関連 採択機関の連携について |
| | 3 1 長期インターンシップの意味 |
| | 3 2 インターンシップ先確保 |
| | 3 3 長期インターンシップに う問題点 |
| | 3 4 採択機関の連携 |
| 16:50 17:00 | 一日目のまとめ |

17:00 17:15 ST「博士人材キャリア開発サイト」について
 17:15 集合
 17:30 19:30 情報交 会
 2日目(1月6日()) 8:45 開場
 09:00 09:50 4 費関連 補助期間終了後について
 4 1 費関連
 4 2 補助期間終了後について
 4 3 補助期間終了後にむけた連携
 10:00 10:50 5 ・ 界・ ST への要 全体討
 5 1 インターンシップ期間と法的な制約
 5 2 大手企業に関連した事項
 5 3 ST への意見や質問
 5 4 問題意識についての提案
 11:00 11:55 6 担 者会 (広島で 月開)について
 11:55 12:00 会

担 者連 会のまとめ

DC に関する項目	内容	明らかになったこと
事務手 き	国費外国人 学生に関する 意事項	1 1 現 が できた
事務手 き	学生に関する 意事項	5 1 現 が できた (日 については要確)
大学院教育改革	指導教員の 方を るための方	1 3 解 だが はありそう
養成対象者の意識改革	理工系学生をDに進学させ、また、本事業に 取り組ませるには	2 4 継 した努力が必要
インターンシップ先 での本人の意識	単なる業務ではなく、意識設定をさせるには	3 3 事前研修および期間中の が大事

PDに関する項目	内容	明らかになったこと
事務手 き	学生を、学位取得後、 スドクとして 用 する場合(あるいは 用するまで)のビ に関	1 1 現 が できた

	する 意事項	
大学院教育改革	現在の 用者である教員や大学にも ストク 問題の 事者であることを 識させるための 方	1 3 解 だが はありそう
インターンシップ中 の 保	PDの 保	3 3 費で対 可

解 の項目	内容	明らかになったこと
費関連 問題	各機関からの問い合わせに対して、STは 別に するだけでなく、全機関に知らせて しい	4 1 5 3 新サイトの活用 メールによる情報発 信が必要
・ 界	・ 学生の取り いに関する抜本的問題提 ・D学位取得者の 用に関する抜本的問題 提	5 2 6 科 産 産業界にも人財育成 について動きがある それらと連携し、 産業界をまきこんでの人材育成が必要
大学間連携	カリキュラム 対象者D 企業D 等, 大学間 の連携が可能か	2 2 3 4 4 3 後の課題
補助期間終了後	独自 で をどのように進めていくか	4 2 学とインターンシップを分けることも の一つ。インターンシップに関して は らかの外部支援が必要
補助期間終了後	インターンシップ先確保と 職の支援	4 3 人材 業のような組織が必要。継 した努力と検討が必要

7-6. 担当者会議（ポストドクター・キャリア開発事業）

日時:平成24年7月6日()13:00 19:00・7月7日()9:30 12:00

場所:ホテルグラン イア広島 4 の間

1日目

13:00 開会 広島大学長 浅原 利正

13:10 セッション

テーマ:社会で活かす博士人材育成のための実践プログラムの実

(H20)京 大学先端技術グローバルリーダー養成ユニット ユニット長 長 部

「京 大学における博士人材育成の取り組み」

(H20)東京 工大学アグロイノベーション高度人材養成センター 特任教 本 人

「アグロイノベーション戦略研究プログラムについて」

(H21)広島大学若手研究人材養成センター 特任教

「学内外のリソースを利活用した実践プログラムの実」

(H22)立 大学 理工学部 教 次

「『産学連携コーオプ 高度人材育成プログラム』の実践と問題点」

コメンテーター:東 大学高度イノベーション博士人材育成センター 事業推進主 高 男

コーディネーター:広島大学若手研究人材養成センター センター長 田 子

14:30 セッション

テーマ:社会で活かす博士人材育成のための他機関との連携

(との連携, 地との連携, 地域企業や団体等との連携)

(H20) 大学イノベーション人材養成センター 特任教 田 博

「 大学における他機関との連携について」

(H22) 戸大学生 医学イノベーション創出人材養成センター センター長・教 東 健

「生 医学領域の博士人材育成における 戸での取り組み」

(H22)東京大学 G H P 特任助教(外・広報担) 山 加

「東京大学GH Pのインターンシップ派遣先について」

コメンテーター: 大学人材育成本部 大パイオニア人材育成ステーション

特任教 見

コーディネーター:広島大学若手研究人材養成センター センター長 田 子

15:35 セッション

テーマ:社会で活かす博士人材育成のための学内の意識・組織改革

(H20)東京工業大学プロダクティブリーダー養成機構 特任教 田 健

「学内意識改革へ向けてのP Pの取り組み」

(H20) 先端科学技術大学院大学キャリア支援センター センター長・学長 一

「 先端科学技術大学院大学におけるキャリア支援体制の全学的整 について」

(H21) 大学マルチキャリアセンター センター長・学長 野波 健

「の価値 創造人材の育成と大学院改革の取り組み」

コメンテーター:信 大学イノベーション創発人材育成センター センター長 山本

コーディネーター:広島大学若手研究人材養成センター センター長 田 子

16:35 研究者人材データベース(C),技術者 学 システムについて

独立行 法人科学技術振興機構 知識基 情報部 上 子

17:05 集合



17:15 19:00 情報交 会・ スターセッション

2日目

9:30 セッション

テーマ:社会で活 する博士人材育成のための企業との連携を進めるための工

(H20)大 大学産学連携本部イノベーション部 特任教 田

「大 大学における企業との連携を進めるための工 」

(H20)大 立大学21 科学研究機構 教 井 利

「企業と博士人材を :大 立大学の実践」

(H21)新 大学産学連携推進機構 教 田

「『産学連携の新 大学 デル』構築への挑戦と課題」

コメンテーター: 大学イノベーション創出若手人材養成センター 特任教 年

コーディネーター:広島大学若手研究人材養成センター センター長 田 子

10:55 総合討

11:40 全体コメント 独立行 法人科学技術振興機構

11:50 会

12:00 会

7-7. 他機関との連携

本センターの教員は、他機関の取組みに次のような協力をしている。

日時	実施機関名	参加者 名	会 ・シン ジウム等名
平成22年11月19日	新 大学	(パネリスト)	ソフトな財 による若手人材育成シン ジウム2010
平成24年3月13日	立 大学	田 子 (外部委員)	産学連携コーオプ 高度人材育成プログラム 1 外部評価委員会
平成24年11月12日	名 大学	(講)	「キャリアデ イン 」の講 「ライフプランを たキャリア設計」と題して、 主として情報系の大学院生対象に講義
平成24年11月29日	立広島大学	(講)	平成24年度 立広島大学キャリア教育シン ジウム 地域で活 する専門職業人としてのキ ャリア 成 において講 。 題目:「 き方と の生活を た 職活動」
平成25年1月22日	部科学	(パネリスト)	博士人材キャリアパス開発シン ジウム2013の パネルディスカッション「コーディネーターとメン ターから見たマッチング問題」
平成25年2月21日	山大学	(講)	2 講 会・インターンシップにおいて講 。 題目:「博士のキャリア設計戦略」
平成25年3月15日	立 大学	田 子 (外部委員)	産学連携コーオプ 高度人材育成プログラム 2 外部評価委員会
平成25年5月10日	金 大学	川 (講師)	平成 25 年度金 大学自 科学研究科博士後 期課程オリエンテーション 題「博士人材はどのように ,どうやっ て食 ていくのか」
平成25年5月18日	岡大学	川 (講師)	岡大学博士キャリア開発支援センター 2013 年度第 2 回講 会 題「ライフプランを考えたキャリア設計」
平成25年6月27日	立広島大学	川 (講師)	立広島大学 (原キャン ス) (全学共通 教育科目「キャリアビジョン」) 題「大学での専門を社会で活かす」
平成25年8月1日	島大学大 学院連合 学 研究科	川 (講師)	島大学大学院連合 学研究科(博士課程 後期)「人材養成学生支援セミナーI」 題「ライフプランという視点から 継続的なキャリア成長を考える」

平成25年12月4日	立広島大学	川 (講師)	立広島大学（広島キャンパス）（全学共通 教育科目「キャリアビジョン」） 題「ライフプランという長期視点での キャリア設計」
平成26年3月13日	立 大学	田 子 (外部委員)	産学連携コーオペ 高度人材育成プログラム 3 外部評価委員会

7-8. 学内合同シンポジウム

広島大学では、4つの()科学技術振興調整費のシステム改革事業が同時進行していた。4つのプログラムは関連性が高い。そこで、学内への()や意識改革をより効果的に進めるために、合同シンポジウムを開いた。

部科学 科学技術システム改革事業
広島大学 プロジェクト合同シンポジウム

： 本学では、科学技術システム改革事業として、プロジェクトを同時に推進しています。プロジェクト間の連携を強め、それぞれの取組みをより効果的に進めることを目的として、合同シンポジウムを開きます。これらの事業の学内()をより進め、事業終了後の学内での位置づけを検討する機会とします。

日時： 平成24年3月30日()14:00 16:45

場所： 広島大学学士会 レセプションホール(東広島キャンパス)

対象： 大学関係教職員

シンポジウム：

14:00 開会

主 者 広島大学長 浅原 利正

14:05 基調講 「 国の科学技術 ()と人材育成の重要性」

部科学 科学技術・学術 ()長 ()定

14:45 事業報告

(1) 戦略的環境リーダー育成拠点 ()成

「 ()社会を設計する国際環境リーダー育成」

国際協力研究科 教 ()原 ()正

(2) ストドクター・インターンシップ推進事業

「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」

学長補 ()的 ()担 ()田 ()子

(3) テニユアトラック ()及・定着事業

「国際サステナブル科学リーダー育成プログラム」

理事・学長(研究担 ()) 英子

(4) 女性研究者養成システム改革加速事業

「広大システム改革による女性研究者活 ()進」

学長補 ()的 ()担 ()田 ()子

16:15 総合討

16:45 会

情報交 会

17:00 19:00 学士会 1 レストラン ラ・ボエーム

7-9. 外部に紹介された取組

社のウェブサイト「大学受 パスナビ」に
「広大生の（モ・ト）」の 載
： 20131216 03



総合博物館 7 企画展「広島大学のチカラ リサーチ・
ユニバーシティの研究 前 」
パネル展示 ーン4
「 は ー期待される若手研究者のチカラ」に出演

開 日時 平成25年11月2日() 11月16日()
開 場所 広島大学東広島キャンパス 学生プラ 1
主 広島大学総合博物館
協 力 広島大学学術・社会産学連携室研究企画室,
広島大学学術・社会産学連携室広報グループ,
広島大学若手研究人材養成センター



8. 外部評価

8-1. 外部評価委員会

若手研究人材養成センターでは、外部の関連組織・識者の方に外部評価委員を委し、本システムの外部評価を受けている。外部の方の意見をに受けめ、よりい取り組みとするよう努めている。

8-1-1. 第1回外部評価委員会

日 時:平成 23 年 3 月 18 日()10:00 12:00

場 所:広島ガーデンパレス

外部評価委員()

広島 工 産業振興部長

田

山大学理事・学長(研究・学術担)

研究推進産学官連携機構長

生(委員長)

産業 中国 産業 地域 部産業人材 課長 田 中 義

東広島市 市長

原

製薬株式会社 研究管理部長

英 次

総合講評

(1)評価する点

・広島大学は、博士人材の養成を目的とした若手研究人材養育センターを立ち上げ、大学として部 間に を した体制を構築し、人材養成機能を つた組織を運営している。特に を した運営に意識を っているところを高く評価する。

・特にこの事業は、イノベーションという意味では、企業との連携ということが に重要な を つとわれ、 に地元企業 33 社との連携体制を築き上げたということも実績として高く評価する。

・現在までに、輩出している博士人材、特に博士研究員が 職に っているということについて、その人数については があるにせよ、これはやはり評価すべきことと われる。また、現時点で中間の評価に 分 成できるという自 評価であり、 後 にインターンシップの活用による 職者数の 加を期待する。

(2)課題と要 , 期待するところ

1 人材養成に関するもの

・企業への 職の目標 が い。もっと大きなチャレンジングな目標を げて進めて頂きたい。現時点では、中国地域への 職数がないので、インターンシップを通して地域企業への 職数を やすことに努力していただきたい。

・外国人の方に べ、日本人の大学院生及び博士研究員の参加が ない。日本人にも本取組への理解

を広げ、プログラムの定着に努力して頂きたい。益な事業であるので、もっと展開して欲しい。インターンシップは に 重な であるので、後 は学部生や博士課程前期の時点から課程の中に組 む ことを検討していただきたい。

・プログラムを修了した者へのフ ローアップの体制整 を検討していただきたい。

・大学では、人材を り出すという出す の意識が に強く、出 ニーズのことをあまり ていないことが多い。出 を見 た取組がもっと強化されてしかるべきである。本事業では、連携企業のニーズを ま , コーディネーターを活用するなどして、ニーズ調査を に に行って欲しい。

2 運営・システム・事業 進に関するもの

・大学の中で の取組が 数行われているので、一元的な人材育成ができるように外部から見た場合も分かり い体制を築いて欲しい。

・メンターへの評価システムの整 をしていただきたい。

・企業人を した講義やセミナーが多数行われているが、その企業に人材を り出すには っておらず、 の取組がもったいない。

・まだインターンシップに取組んだ のない企業に対し、これまでの実績を ま て、標準的なインターンシップのコースを確立していくことが、広島大学の取組が に意味を すことにつながると われる。

3 に関するもの

・学生への MOT 教育については、大学院からではなく、学部生の時から行っていただきたい。

・本事業では、社会人の受入を対象としていないので、必ずしもこの事業でというわけではないが、 に行われている社会人も参加できる MOT プログラムをさらに 実・展開することを期待する。現在のところ、博士研究員及び博士課程後期の学生を対象に事業を進められているが、 後は社会人への展開ということも期待したい。

8-1-2. 第2回外部評価委員会

日 時:平成 25 年 2 月 14 日()10:00 12:00

場 所:ホテルセンチュリー21 広島 4 「ルビー」

外部評価委員()

東広島市 市長

大

広島 工 イノベーション推進部長

田

マツダ株式会社 品企画部 主

野

産業 中国 産業 地域 部 産業人材 課長

中 実

山大学研究推進産学官連携機構長 理事(研究担)・ 学長

山本 進一

製薬株式会社 研究管理部長 英次

総合講評

評価する点、課題と要望、期待するところ

プログラムの進捗としては、当初計画に比べて、遅延に実行されている。実践プログラムとして設置されている実務コアコースの「実務キャリアプログラム」、「英語コミュニケーションプログラム」、「MOT教育プログラム」、イノベーション研究コースの「融合領域研究プログラム」、「異分野研究支援プログラム」はカリキュラムとして十分に実化したものとなっている。企業や企業の技術者にとっても評価でき、有用とされる内容である。ただし、企業人材セミナーの講義には、企業の研究開発担当者や人事・採用、管理職の立場にある方に加えて、経営者という点からの講義を加えるのもよいと思われる。

養成対象者の選抜方法については、広報も十分に評価できる。後の課題としては、インターンシップを受入れた企業や企業の担当者の意見を取入れることやインターン終了後のフォローアップ、それらをまた上で後の事業推進に活かしていただきたい。

連携企業の数が前回の外部評価委員会の際から明らかに増加しており、センターのスタッフの努力について評価できる。現在、連携企業にある企業とは、さらに連携を深めていくことが重要と思われる。

インターンシップに参加する養成対象者については、「インターンシップを一種の他校訪問と見做し、就業されている社員の方と接するという気持ちで行っていただきたい。

8-1-3. 第3回外部評価委員会

日時:平成26年2月20日(土) 10:00～12:00

場所:ホテルセンチュリー21 広島 4 会議室「ルビー」

外部評価委員()

広島県 工務局 イノベーション推進部長

大 知 広

マツダ株式会社 企画部 主 幹

野

産業 中国 産業 地域 部 産業人材 課長

田中 子

野村 株式会社 融公 公益法人部長

野

東広島市 市長

原

山大学 研究推進産学官連携機構長 理事・学長(研究担当)

山本 進一

事次

10:00 開会

開会 本 若手研究人材養成センター長 理事・ 学長(社会産学連携・広報・情報担)

10:05 10:10 出 者

10:10 10:15 委員長選出

10:15 10:45 平成 25 年度等事業報告

10:45 10:55 平成 26 年度事業計画

10:55 11:25 事業報告と事業計画に関する質

11:25 11:45 外部評価のまとめ

11:45 11:55 総合講評

11:55 12:00

会 田 子 若手研究人材養成センター センター長 学長(大学 営企画担)

12:00 会



9. 取組履歴

9-1. 計画の開始

平成 21 年度科学技術振興調整費「若手研究者養成システム改革」の「イノベーション創出若手研究人材養成」に、広島大学として『地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画』を申請し、採択された。提案内容の概要を次に示す。

提 案 課 題 名	地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画
実 施 定 期 間	平成21年 月 平成2 年 月まで
提 案 機 関 名 総括責任者名	国立大学法人 広島大学 広島大学長 浅原 利正
課題の概要	若手研究人材養成センターを設置し、男女を問わず、独自の専門に裏打ちされた幅広い知識と興味をもち、新分野に挑戦する活力のある人材を養成する。博士課程後期の学生及び若手博士研究員を対象とする。被養成者は、センターで開発する「実践プログラム」(実務キャリア、英語コミュニケーション、MOT 教育、融合領域研究、異分野研究支援、企業派遣の各プログラム)を選択して受講する。修得単位や取組み実績は、アチーブメントカードシステムにより一元管理し、それに基づく指導・助言を行う。学会中国四国支部等の活動で培っている企業や教員組織との連携を通して、中国四国地方における産官学と協奏的に若手研究人材養成を推進する。

平成21年度科学技術振興調整費の審査 及び 果概要は次のとおりである。

(平成 21 年 5 月 14 日 部科学 発表)

プログラム名	提案件数	ヒアリング件数	採択件数
若手研究者の養成システム改革			
若手研究者の自立的な研究環境整備	19	12	6
イノベーション創出若手研究人材養成	23	14	7
女性研究者支援システム改革			
女性研究者支援 デル育成	22	17	12
女性研究者養成システム改革加速	17	13	5
地域 生人材創出拠点の 成	46	18	12
アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進			
戦略的環境リーダー育成拠点 成	21	11	7
国際 同研究の推進	74	21	11
合計	222	106	60

科学技術振興調整費は、3 期科学技術基本計画に げられた科学技術システム改革等の重要課題・目標を実現するための 導 の 的な であった。事業仕分け(平成21 22年度)の 果を ま , 科学技術振興調整費は となったが、継 事業については所期の目的が 成されるよう き き取り組むこととされた。その 果、制度 で取 が となり、『地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画』は、平成 23 年度は、『科学技術人材育成費補助 』の補助事業「 ストドクター・インターンシップ推進事業(イノベーション創出若手研究人材養成)の継 課題となった。さらに、平成 24 年度からは、「 ストドクター・キャリア開発事業」に事業名が になっている。

9-2. 文部科学省による中間評価

平成 23 年度の科学技術戦略推進費及び科学技術振興調整費による実施プロジェクトの中間 事後評価等は、「国の研究開発評価に関する大 的指 （平成 20 年 10 月内 総理大 定）等を ま , 部科学 （科学技術・学術審 会 研究計画 評価分科会 研究開発評価部会）にて実施された。「イノベーション創出若手研究人材養成」の評価作業部会による中間評価のための機関ヒアリングは、平成 23 年 11 月 29 日に実施された。評価 果は、総合科学技術会 科学技術 担 大 と 識者 員との会合（平成 24 年 1 月 26 日）に報告された。

イノベーション創出若手研究人材養成

「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」中間評価ヒアリング

開 日時：平成2 年11月2 日()11: 11:55

開 場所：ST 東京本部 会 室

「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」の中間評価 果

	評価	コメント
総合評価	(所期の計画と同等の取組が行われている)	地方大学として中国四国地方を中心とした協力企業を開発し、独自の養成者管理システムを確立するなど、体制整備への努力と取組実施は評価できる。しかし、全学的取組とするためには、総括責任者である学長のリーダーシップの下、機関の強力な支援体制の整備を期待する。
進	(所期の目標をやや下っている)	若手研究人材養成センターを設置し若手研究人材システムを整えるなど、人材養成に向けた体制を構築した点は評価できる。しかし、ストドクターの産業界への輩出人数は目標数を満たしているが、養成者人数、博士後期課程在籍者の輩出者人数ともに目標数に達しておらず、教員及び学生の意識改革、学長のリーダーシップの下での全学的取組が必要である
イノベーション人材養成システム改革	()である)	担当教員の学内外の理解と、問題を出し対峙をするなどの改革に向けた取組は評価できる。しかし、構築したシステムを十分に実質化するために、学長のリーダーシップの下での全学的な取組を期待する。
実践プログラムの開発・運用	()である)	アチーブメントカードシステムの導入、ウェブサイトの整備、博士人材キャリア室の設置など、独自の取り組みは評価できる。その成果を上げるために、全学への周知、教員及び学生の意識改革をすすめるための工事を期待する。
実施体制	(やや不十分である)	プログラムの実施体制はよく構築されているが、それが必ずしも効に活用されていない。教員やストドクター、博士課程(後期)学生の意識改革と、全学的な総括責任者である学長の指導力と全学的支援の下に進めることが必要である。地方協奏をうたっているが、地方自体などとの連携が不十分で、名実ともに地方協奏を実りあるものにするために、地方自体との関係強化が必要である。
後の進め方	(継続性・発展性の確保が期待できる)	通期選抜に加えて新たに実施する特別選抜の成果に期待する。ストドクター、博士課程(後期)学生の在籍者数からしても、現況にとどまらずに発展させるべく、学長以下全学的な支援体制の確立を期待する。事業実施期間終了後の可能性を担保するためには、計画を定める計画の調査が必要である。

9-3. 年度ごとの取組事項

実施日	取組内容
実施期間以前の主な取組	平成 18 年 4 月:産学連携センターに「新産業創出・教育部門」を設置 (平成 22 年度より, 産学・地域連携センター「新産業創出・教育部門」) 平成 15 19 年度:科学技術振興調整費 新興分野人材養成「ナノテク・バイオ・IT 融合教育プログラム」を推進 平成 19 年度:キャリアセンターにて、『理工系大学院生のためのキャリアデザイン 博士になる人のために』を作成 平成 20 年度:『若手研究者と企業との交流会』6 開 (理工系研究科)
平成 21 年 7 月 15 日	若手研究人材養成センターを設置 研究人材養成委員会を設置

平成 21 年度

実施月	取組内容	
	選抜	セミナー等
7 月	1 研究人材養成委員会(27 日)	
9 月	期生(平成 21 年 10 月期) 集開始 2 研究人材養成委員会(7 日) 3 研究人材養成委員会【書 審】(8 日) 4 研究人材養成委員会【書 審】(19 日)	
10 月	期生(平成 21 年 10 月期) 開講式・スタートアップセミナー(1 日) 5 研究人材養成委員会(9 日)	「若手研究者と企業の交流会」(21・22 日)
11 月	6 研究人材養成委員会(6 日)	1 企業人材セミナー(13 日) 2 企業人材セミナー(16 日) 3 企業人材セミナー(18 日) 4 企業人材セミナー(27 日)
12 月		5 企業人材セミナー(1 日) 6 企業人材セミナー(4 日) 1 広島大学若手研究人材養成シンジウム(9 日) 6 ナノ・バイオ・インフ 化学シンジウム(英語による 発表)(12 13 日)

1 月	期生(平成 22 年 4 月期) 集開始 7 研究人材養成委員会(19 日)	1 企業見学会(7 日)
3 月	1 成果報告会(11 日) 8 研究人材養成委員会(4 日)	

平成 22 年度

実施月	取組内容	
	選抜	セミナー等
4 月	期生(平成 22 年 4 月期) 開講式・スタートアップセミナー(1 日) 9 研究人材養成委員会(28 日) 期生(平成 22 年 10 月期) 集開始	アチーブメントカードシステム(トレイニー向け)利用 明会(14 日)
5 月		7 企業人材セミナー(14 日) 8 企業人材セミナー(28 日)
6 月		9 企業人材セミナー(11 日) 10 企業人材セミナー(18 日)
7 月		11 企業人材セミナー(16 日)
8 月	10 研究人材養成委員会(31 日)	
9 月	2 成果報告会・ 期生修了式(28 日)	
10 月	期生(平成 22 年 10 月期) 開講式・スタートアップセミナー(1 日)	12 企業人材セミナー(15 日) 13 企業人材セミナー(29 日)
11 月	11 研究人材養成委員会(29 日)	14 企業人材セミナー(12 日)
12 月	期生(平成 23 年 4 月期) 集開始	7 ナノ・バイオ・インフ 化学シン ジウム(英語による 発表)(4 5 日)
1 月		15 企業人材セミナー(19 日)
3 月	3 成果報告会・ 期生修了式(9 日) 期生 加 集開始 12 研究人材養成委員会(11 日)	2 広島大学若手研究人材養成シンジウム(9 日) 16 企業人材セミナー(11 日) 1 外部評価委員会(18 日)

平成 23 年度

実施月	取組内容	
	選抜	セミナー等
4 月	期生(平成 23 年 4 月期) 開講式・スタートアップセミナー(1 日)	54 中国四国産学連携化学フ ーラム「イノベーション創出と人材育成」(8 日)
5 月	13 研究人材養成委員会(17 日)	17 企業人材セミナー(13 日) 18 企業人材セミナー(27 日)
6 月	期生(平成 23 年 6 月期)	19 企業人材セミナー(10 日)

	開講式・スタートアップセミナー(1日) 期生(平成22年10月期) 集開始	20 企業人材セミナー(24日) 2 企業見学会(28日)
9月	4 成果報告会・期生修了式(28日) 14 研究人材養成委員会(12日) 期生 加 集開始	
10月	期生(平成23年10月期) 開講式・スタートアップセミナー(3日)	21 企業人材セミナー(13日) 22 企業人材セミナー(28日)
11月	15 研究人材養成委員会(14日)	23 企業人材セミナー(11日) 3 企業見学会(14日)
12月	期生(平成23年12月期) 開講式・スタートアップセミナー(2日) 16 研究人材養成委員会(14日)	8 ナノ・バイオ・インフ 化学シン ジウム(英語による 発表)(10 11日) 24 企業人材セミナー(16日)
1月	期生(平成24年4月期) 集開始	若手研究人材養成のための担 者連 会 (5 6日) 25 企業人材セミナー(20日)
2月	期生(平成24年5月期) 集開始	26 企業人材セミナー(3日) 27 企業人材セミナー(22日) 1 ストレス・マネジメントセミナー(23日)
3月	5 成果報告会・期生修了式(8日) 17 研究人材養成委員会(8日)	3 広島大学若手研究人材養成シン ジウム(8日) 28 企業人材セミナー(22日) 合同シン ジウム(本学で進行中の4つの ()科学技術振興調整費による事業の合同 シン ジウム) (30日)

平成24年度

実施月	取組内容	
	選抜	セミナー等
4月	期生(平成24年4月期) 開講式・スタートアップセミナー(2日) 18 研究人材養成委員会(24日)	55 中国四国産学連携化学フ ーラム 「化学業界の人材育成」(13日) 2 ストレス・マネジメントセミナー(24日)
5月	期生(平成24年5月期) 開講式・スタートアップセミナー(15日)	29 企業人材セミナー(11日) 30 企業人材セミナー(25日)
6月	期生(平成24年10月期) 集開始	31 企業人材セミナー(8日) 32 企業人材セミナー(22日)
7月		4 担 者会 (ストドクター・キャリア開

		発事業) 事校(6 7日)
8月	期生(平成24年12月期) 集開始	33 企業人材セミナー(3日)
9月	6 成果報告会・ 期生修了式(14日) 19 研究人材養成委員会(4日)	
10月	期生(平成24年10月期) 開講式・スタートアップセミナー(1日)	3 ストレス・マネジメントセミナー(11日) 34 企業人材セミナー(15日)
11月	20 研究人材養成委員会(7日)	35 企業人材セミナー(9日) 36 企業人材セミナー(22日)
12月	期生(平成24年12月期) 開講式・スタートアップセミナー(3日) 期生(平成25年4月期) 集開始	9 ナノ・バイオ・インフ 化学シン ジウム(英語による 発表)(8 9日) 37 企業人材セミナー(14日)
1月		38 企業人材セミナー(11日) 39 企業人材セミナー(24日)
2月	期生(平成25年6月期) 集開始(14日)	40 企業人材セミナー(7日) 2 外部評価委員会(14日)
3月	21 研究人材養成委員会(11日) 7 成果報告会・ 期生修了式(11日)	4 広島大学若手研究人材養成シンジウム(11日)

平成25年度

実施月	取組内容	
	選抜	セミナー等
4月	期生(平成25年4月期) 開講式・スタートアップセミナー(1日)	4 ストレス・マネジメントセミナー(23日) 41 企業人材セミナー(26日)
5月	22 研究人材養成委員会(14日) 期生(平成25年8月期) 集開始	42 企業人材セミナー(31日)
6月	期生(平成25年6月期) 開講式・スタートアップセミナー(3日) 期生(平成25年10月期) 集開始	43 企業人材セミナー(14日) 44 企業人材セミナー(27日)
7月	23 研究人材養成委員会(22日)	45 企業人材セミナー(19日)
8月	期生(平成25年8月期) 開講式・スタートアップセミナー(2日)	
9月	期生(平成24年12月期) 集開始 8 成果報告会・ 期生修了式(20日)	
10月	24 研究人材養成委員会(28日)	46 企業人材セミナー(18日)

		5 ストレス・マネジメントセミナー(31 日)
11 月		47 企業人材セミナー(1 日) 48 企業人材セミナー(15 日)
12 月	期生(平成 25 年 12 月期) 開講式・スタートアップセミナー(2 日)	49 企業人材セミナー(6 日) 10 ナノ・バイオ・インフ 化学シン ジ ウム(英語による 発表)(14 15 日) 50 企業人材セミナー(19 日)
1 月		51 企業人材セミナー(23 日)
2 月		52 企業人材セミナー(7 日) 3 外部評価委員会(20 日)
3 月	9 成果報告会(5 日)	5 広島大学若手研究人材養成シン ジウム(5 日)

9-4. 人材養成の担当者

担 責任者

浅原 利正 広島大学 学長 本事業総括責任者
本 理事・学長(社会産学連携・広報・情報担) 若手研究人材養成センター長
田 子 学長(大学 営企画担) 本事業実施責任者

9-4-1. 研究人材養成委員会

役割:本事業の意 定機関。本事業で連携する企業の役員 1 名と本学の教職員で構成している。人材養成プログラムの在り方の検討, 具体的なプログラムの企画・実施, 被養成者選 の 定等。

構成員(平成 25 年度):

本	(委員長)	理事・学長(社会産学連携・広報・情報担)
田	子 (委員長)	学長(大学 営企画担)
正		理事・学長(教育担)
上	一	理事・学長(平 ・国際担)(平成 25 年 12 月まで)
田	総	理事・学長(研究担)
平野		理事(財務・総務担)
		学長(学生支援担)・キャリアセンター長
山		薬学部長
	三	外国語教育研究センター長
三	三	産学・地域連携センター 新産業創出・教育部門長
		大学院理学研究科教
日高	洋	大学院理学研究科教
		大学院工学研究院教
野		理事(学術支援担)

高	理事(研究企画担)
	理事(研究企画担)
田	理事(研究企画担)
本	理事(社会連携担)
山 子	理事(研究連携担)
	理事(財務・総務企画担)
田 一	理事(人事・ 務担)
博	株式会社サタケ 取 役 人事部長
健	大学院課程会 長
	若手研究人材養成センター 特任教

9-4-2. 被養成者選抜ワーキング

役割: 書 の審査と

構成員(平成 25 年度):

日高 洋 (G 表)	大学院理学研究科教
田 子	学長(大学 営企画担)
田	大学院医歯薬保健学研究院教
前田	大学院生物圏科学研究科教
平田 大	大学院先端物質科学研究科教
	若手研究人材養成センター特任教

9-4-3. 実践プログラムワーキング

役割:実務コアコースとイノベーション研究コースの 業内容や取組内容の計画と実施。

構成員(平成 25 年度):

実務コアコース

	学長(学生支援担)・キャリアセンター長
三 三	産学・地域連携センター(新産業創出・教育部門長)
前田	外国語教育研究センター 教

イノベーション研究コース

田 子 (G 表)	学長(大学 営企画担)
	大学院工学研究院教
山 子	理事(研究連携担)
本	理事(社会連携担)

9-4-4. 研究科連絡ワーキング

役割:各研究科において、学生や教員への連 や 知。理工 系の全研究科に 1 名ずつ。

構成員(平成 25 年度):

田 子 (G 表)	学長(大学 営企画担)
------------	--------------

	大学院工学研究院教
田 正	大学院理学研究科 教
田原 栄	大学院医歯薬保健学研究院教
中	大学院総合科学研究科教
原 正	大学院国際協力研究科教 (研究科長)
前田	大学院生物圏科学研究科教
山田	大学院先端物質科学研究科教

9-4-5. HP ワーキング

役割:本学の公式 及び本事業の独自 の構成や 載内容を検討。

構成員(平成 25 年度):

田 子 (G 表)	学長(大学 営企画担)
	学長(学生支援担)・キャリアセンター長
	大学院理学研究科教

9-5. 人材養成の被養成者

広島大学のイノベーション人材養成システムにおける若手研究人材養成は、基本的に、次の 3 から構成する。博士課程前期の期間は、主として、それぞれの所属する専 において、専門知識・専門領域の研究の基 力を身につける。博士課程後期の期間に、若手研究人材養成センターにおいて、主として D1 D2 の間の 1 年間で、実践プログラムの科目を受講し、さらに幅広い 野と能力を身につける。多様なキャリアパスから、本人が する方向に進む。

男女を問わず、独自の専門に裏打ちされた幅広い知識と興味をもち、新分野に挑戦する活力ある人材を養成する。博士後期課程の大学院生(広島大学の所属)および若手研究者(全国から公)を養成対象とする。

9-6. 若手研究人材養成センターのメンバー

9-6-1. 平成 21 年度

教員	若手研究人材養成センター	センター長	本
		センター長	田 子
		特任教	
専任職員	事務職員		野田
	推進員		
	推進補助者		加 子
	推進補助者		保 子
協力職員	学術室学術推進グループ		免田 一
	社会連携・情報 室		山 子 (社会連携グループリーダー)

9-6-2. 平成 22 年度

教員	若手研究人材養成センター	センター長	本
		センター長	田 子
		特任教	
専任職員	事務職員		野田
	推進員		
	コーディネーター		一
	コーディネーター		田 (平成 23 年 1 月から)
	推進補助者		井上
	推進補助者		加 子
	推進補助者		保 子
協力職員	学術室 学術推進グループ		免田 一
	社会連携・情報 室		山 子 (社会連携グループリーダー)

9-6-3. 平成 23 年度

教員	若手研究人材養成センター	センター長	本
		センター長	田 子
		特任教	
専任職員	事務職員		優子
	推進員		(平成 23 年 6 月まで)
	推進員		井上
	コーディネーター		一
	コーディネーター		田
	推進補助者		子
	推進補助者		加 子 (平成 24 年 2 月まで)
	推進補助者		原 (平成 24 年 3 月から)
	推進補助者		保 子
協力職員	学術室 学術推進グループ		
	学術室 学術推進グループ		間 英
	社会連携・広報・情報室		上 (社会連携グループリーダー)

9-6-4. 平成 24 年度

教員	若手研究人材養成センター センター長 センター長 特任教	本 田 子
専任職員	事務職員 コーディネーター コーディネーター 推進補助者 推進補助者 推進補助者	優子 一 田 子 原 保 子
協力職員	学術・社会産学連携室	村上 (社会連携グループリーダー) 敏 (研究企画室 主 (プロジェクト主担当))

9-6-5. 平成 25 年度

教員	若手研究人材養成センター センター長 センター長 特任教	本 田 子
専任職員	事務職員 推進員 コーディネーター コーディネーター 推進補助者 推進補助者 推進補助者 推進補助者	優子 一 田 子(平成 25 年 10 月まで) 原 (平成 25 年 12 月まで) 保 子 なつみ
協力職員	学術・社会産学連携室	村上 (社会連携グループリーダー) 敏 (研究企画室 主 (プロジェクト主担当))

10. 成果（5年間）のまとめ

この事業を開始してから5年がたちました。若手研究人材養成センターの設置から始まり、さまざまなことを実施してきました。多くの教職員の方の協力があった、ここまで進めてくることができたと感じています。この5年間の実施成果およびその効果をここにまとめます。若手研究者のために実施しているこの事業を、若手研究者にとって役に立つものとして広島大学に付かせていくために、広島大学全体の取組みとしての意識と位置づけをさらに高めていきたいと思っています。

田 子（若手研究人材養成センター センター長
学長(大学 営企画担) 大学院理学研究科 教)

1 イノベーション人材養成システム

(1) 養成対象者の選

実施計画	実施 果	効果
・養成対象者は、毎年9月(10月に養成開始)と3月(4月に養成開始)に選抜し、養成期間は、12ヶ月とする。養成人数は、每期、博士課程後期の学生(DC)5人、博士研究員(PD)2人とする。 ・インターンシップ派遣先企業の審査を選程に加る特別選抜制度も活用する。 ・養成対象者数は、5年間で、DC 名、PD1 名を目標とする。	・各研究科において集明会を開した。対象となる学生、PDの情報を集を行い、センタースタッフによるメールによる案内、キャリア室の活用、また、必要により研究室を問し指導教員ともすることにより、者をった。 ・学生やPDのしやすいように、10月と4月の養成開始だけではなく、前期と後期にわけ、数の選抜を行った。平成25年度は、前期DC名、PD名、後期DC名、計DC1名、PD名を採用した。 ・特別選抜により、1件のインターンシップ派遣が実現し、内定となった。 ・事業期間(5年間)では、DC1名、PD1名採用した。	・本システムについて指導教員の識が高まっている。学生のインターンシップへの派遣についても、協力的な教員ができた。 ・理工薬系のあらゆる研究科からのがあった。

(2) 実践プログラムの運営・管理

() 実務コアコース

(1) 実務キャリアプログラム(社会人基力の向上とビジネススキルの基を学)	「理工系キャリアデザイン」などの業科目を大学院の正科目として実施。	本システムの養成対象者だけでなく一の学生も受講。
---------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------

(2) 英語コミュニケーションプログラム(自身の研究内容をわかりやすく英語で書く・るスキルを学)	・外国語教育研究センターと連携して、「アドバンスト・イングリッシュ」などの業科目を大学院の正 科目として実施。 ・正 科目の他に, 外国語教育研究センター教員による英語セミナーを, 英語でのプレゼンテーション力向上等を目的として, 年1 2 , 5年間で計 開 した。参加者は合計で2 名。 ・外部業者を活用して, 養成対象者を対象に, 「企業で必要な英語 クリエイティブス ーキング」「理工系ビジネス英会」「企業英語プログラム」「ビジネス英語講」「英語ライティングセミナー」を開 。参加者は合計 5名。	・正 業科目や本学の教員が担 するセミナーには, 本システムの養成対象者だけでなく, 一 の学生も受講。 ・外部業者によるセミナーは, 費の の関係で本システムの養成対象者だけに限定する必要があったため, そのように設定。
(3) MOT 教育プログラム(ケースメソッドを通して, 企業実務や 営など専門的な技術 営を学)	産学・地域連携センターと連携して, 「知的財産及び財務・会計」などの業科目を大学院の正 科目として実施。	本システムの養成対象者だけでなく一 の学生も受講。

() イノベーション研究コース

(1) 融合領域研究プログラム(物質科学や生 科学, 情報科学を基 とする融合領域研究の基 を学)	理学研究科, 理学融合教育研究センター及び 子生 科学プロジェクト研究センターと連携して「理学融合基 理」など大学院の正 科目として実施。	本システムの養成対象者だけでなく一 の学生も受講。
(2) 異分野研究支援プログラム (2 1) 企業人材セミナー(企業の研究開発部 で活 中の方や人事担 者より, 新の研究開発動向や企業の める人材について学) (2 2) 企業見学会(企業人材セミナーを補 し, ノづくり現場に れる機会) (2 3) ナノ・バイオ・インフ 化学シン ジウム(融合領域研究の英語による 発表)	) 異分野研究支援プログラム 1) 企業人材セミナー:毎年1 程度開 。毎 , 様 な分野の企業の研究開発部 , 人事担 部 より講 を 。分野としては, 化学15 , 機械1 , 医薬・食品1 , 電気機器 , その他 , 計52 。講 は, 研究開発部門が 2 , 人事担 部門が , その他 。参加者は5年間で べ1 人を た。 2) 企業見学会:5年間で計 実施。中国地域の企業 社を 問。 べ1名参加。	本システムの養成対象者だけでなく, 一 の学生や若手研究員も参加。

(2 4) 若手研究人材養成シンジウム	3) ナノ・バイオ・インフ 化学シンジウム:毎年12月開 。T S P A とS A を各 名程度に 。参加者は5年間で べ 5名。 4) 若手研究人材養成シンジウム:産官学より特別講 を し,それぞれの立場より博士人材の育成に関する特別講 。毎年度 3 月に開 。5年間で計5 開 。参加者は H24 年度までで,計2 名。	
(3) 企業派遣プログラム (3 1) 事前セミナー(ストレスマネジメントセミナー, ビジネスマナー講 会) (3 2) 長期インターンシップの事前研修と 手 き (3 3) 長期インターンシップ(企業等へ, 3 か月間以上のインターンシップに派遣) (3 4) 企業派遣プログラム成果報告会(長期インターンシップの成果を報告)	) 企業派遣プログラム 1) 事前セミナー:ストレスマネジメントセミナー(年1 2 計 開 。参加者は合計 1名。前 は講義,後 は 単なエクササイズを行い 効なストレス対法を身につける), ビジネスマナー講 会(本学の職員初任者研修会に本プログラムの養成対象者が参加。 語の い方,電 対の基本, 対の基本,名 交 など) 2) 事前研修と 手 き: 指導や,派遣前の 準 の指導。 3) 長期インターンシップ:5年間で,インターンシップ派遣は 名(社)で,派遣は計 2 。 4) 企業派遣プログラム成果報告会: 期に一度開 。派遣終了した被養成者は必ず報告を行う。5年間で,計 開 。	本システムの養成対象者だけを対象とした
() アチーブメントカードシステム		
()アチーブメントカードシステム(養成対象者の修得単位や取組実績の一元管理と,それに基づく指導・助言)	・実践プログラムの取組内容を,アチーブメントカードシステムに登録。 ・長期インターンシップ派遣中は,「インタラクティブルーム」によりセンタースタッフと指導教員や養成対象者とのコミュニケーションを図る。	特に長期インターンシップ派遣中においては,養成対象者のメンタルケアにおいても役立った。

	・手 きに必要な書 は、アチーブメントカードシステムから取得できるようにした。	
--	---	--

() 養成対象者の企業への 職

企業への輩出人数の目標 は、5年間でDCが10名、PDが4名(計1名)	・企業等への 職者は17名、内定者が4名。現在インターンシップ中の者は5名。 ・DCは目標10名に対し10名(内定)。 ・PDは目標4名に対し11名(内定)。	・DCは目標通り。PDは目標を大幅に上 った。 ・長期インターンシップへの派遣は 職につながる確 が高い、とい る。
-------------------------------------	---	---

() 連携企業

・中四国地方の様 な業種の企業を 問し、本取組の を明し、連携企業への登録を依頼する。また、養成対象者を企業派遣プログラムで派遣できる企業は、若手研究人材養成センターの「連携企業」のみとしており、養成対象者の や専門分野・正を ま , 学内メンターとも の上、連携企業の確保・大に努める。	・連携企業数は5 社(平成26年1月現在)。そのうち中国地域は1社。	・ 初は、主に中四国地方の企業を 問して連携を依頼。 ・養成対象者が派遣先として する企業を対象にマッチングを図り、連携企業となることを依頼。連携企業との交 が まっている。
--	--	--

(5) 広報

・ホームページ(広島大学のトップページからワンクリックでリンク)では事業概要等の広報を行い、オリジナルページでは、実践プログラム等の開講 などのな情報が得られるようにする。 ・多 な出 物を発行することにより、学生に情報を提 するだけでなく、学内外にセンター事業を させる。	・学内のD生や教員のインタビュー記事をホームページに 載。アクセス数は、「Dの 」9439 , 「先生の 」8590 , 「研究 学」142 。 ・これまでに、「 の 」では院生13名, 「先生の 」では学内教員11名, 「研究 学」では教員1名のインタビュー記事を 載。 ・学生向け 子「 」1(2012) 2(2013 3) 3(2014 3)を発行。 ・3年手 D C S 2013 3 2016 4, 2014 3 2017 10を発行。	・「Dの が広大HP「広大生の ト」にリンクされ、広大博物 の企画展示でも され、広報効果を 分果たしている。 ・事業開始 初に し て、学内での若手研究人材養成センターの 知度が上がり、事業に対する理解が まったことに対する、ホームページ、出物の役割は大きい。
--	---	--

	・「成果報告書」平成 21 ～ 23 年度、平成 24 年度、平成 25 年度を発行。	
--	---	--

() 実施体制

・「研究人材養成委員会」を連携企業及び本学教職員から構成。プログラム実施内容の決定や、被養成者選定の決定、地域の連携企業との関係の構築も図る。メンバーは、学内の理事・学長等および関連する教職員、企業役員から構成する。 ・被養成者選抜 G、研究科連 Gなどを組織し、具体的に活動する。 ・外部評価委員会を組織し、出された意見に基づき、取組を改める。	・研究人材養成委員会は 26 (26 は 3 5 定)開。 ・研究科は随時連を行い、養成対象者補の推等を行った。 ・被養成者選抜は集とに、計 15 開。 ・外部評価委員会は平成 23 年度、平成 24 年度、平成 25 年度(2 20 開定)の計 3 開。	・各委員会や G は機能を分果たし、その定にって、事業を展開することが可能となった。
---	--	--

() 若手研究人材養成センター

・若手研究人材養成センターを設置し、男女を問わず、独自の専門に裏打ちされた幅広い知識と興味をもち、新分野に挑戦する活力のある人材を養成する。	・若手研究人材養成センターを全学組織として設置。 ・博士人材キャリア室では博士研究員と大学院生を対象にキャリアパスをるうでのアドバイス。開室以のべ約 1 800 人の利用。	・ , 研究室や研究科にじていた博士人材の教育に関する意識を全学に広げる役割を果たした。
--	---	--

2 実施期間終了後の取組み

自然科学系に限らず、すべての分野の研究人材を対象として発展させる。また、他大学に所属する学生をこのセンターに受け入れる取り組みを積極的に広げていき、中国四国地方の大学から優秀でやる気のある大学院生が集まるように発展させていく。	・本プログラム実施期間の被養成者の集にたっては、中四国の各大学へ集要項をし、広く被養成者をった果、1名採用しインターンシップ派遣も行った。 ・次年度からは全分野の学生を受け入れることとし、の特別研究員の制度にアカデミックのみでなく、企業への職も野に入れた集を行い、人材育成を行う。	・キャリアセンターとの連携をめ、学内からも学外からもわかりやすい組織にしていく。
--	---	--

期待される波及効果

・全学組織として若手研究人材養成センターを構築することにより、アカデミック・ストの後継者養成としてだけでなく、社会で活躍する博士人材を養成する、というように、教職員の意識改革を進める。 ・学会の支部組織を通じた企業との連携は、法人会員が多い学会の博士人材養成への主体的な取り組みを活性化する。	・5年間の養成対象者の専門分野は、理・工・が同じ割合であった。すなわち、これまで企業との関係がであった分野の教員にも博士人材を社会に送り出す、という意識が醸成された。 ・5月、55中国四国産学連携化学フォーラムを、日本化学学会中国四国支部および中国・四国産学連携学会ので開催。大学における人材養成の取組や、企業の求める人材、人材育成についての講義や討議を行った。参加者は計1名。	・理系教員においても、博士人材の出身として、アカデミックのみでなく、企業への就職を視野に入れるようになった。 ・学会支部に関する企業の研究者や人事担当者との交流があった。
---	--	--

地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画

平成 25 年度（2013 年度）成果報告書

発行年月：平成 26 年 3 月

編集・発行：広島大学若手研究人材養成センター

所在地：〒739-8524 東広島市鏡山一丁目 1 番 1 号（教育学部 K 棟 402 号室）

TEL：082-424-4563

FAX：082-424-4565

（無断複写・転載を禁じます。）